地域づくり

本編

2023
5
ISSN1340-8917

明日を開く、地域活性化のための情報誌



特集　第27回ふるさとイベント大賞

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

地域づくり　2023-5

CONTENTS

1　巻頭エッセー／幸せ人口1000万　新田八朗（富山県知事）

特集

第27回 ふるさとイベント大賞

第27回ふるさとイベント大賞表彰式・2023地方創生フォーラム in 東京を開催　2

大賞（内閣総理大臣賞）〈1団体〉
●市場街（高岡クラフト市場街）【富山県高岡市】　4

最優秀賞（総務大臣表彰）〈1団体〉
●房総里山芸術祭　いちはらアート×ミックス2020+【千葉県市原市】　6

優秀賞〈3団体〉
●わらアートまつり【新潟市（西蒲区）】　8
●小倉城竹あかり【福岡県北九州市】　10
●吉田皿屋ひかりぼし【佐賀県嬉野市】　12

ふるさとキラリ賞〈2団体〉
●行田花手水week及び希望の光【埼玉県行田市】　14
●てぬぐいひらひら【鳥取県境港市】　16

選考委員特別賞〈1団体〉
●書道パフォーマンス甲子園（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）【愛媛県四国中央市】　18

【特集編では大賞・最優秀賞ほか、計22表彰を紹介～特集編のみに掲載される表彰は以下の通り】

●次点

復興への道灯り 多賀城光のインスタレーション2022【宮城県多賀城市】
酒井家庄内入部400年記念宝生流能楽公演「能楽体験・鑑賞能」【山形県鶴岡市】
ただみスノースポーツフェスティバル2022【福島県只見町】
芝桜まつり・世界のあじさいまつり【福島県平田村】
小宅古墳群菜の花・桜まつり【栃木県益子町】
ゲゲゲ忌2021【東京都調布市】
立山Craft2022秋【富山県立山町】
オバラあかりの華 軽トラあんどんパレード【愛知県豊田市小原地区】
狭山池まつり2022【大阪府大阪狭山市】
第44回馬関まつり【山口県下関市】
うだつをいける【徳島県美馬市】
まつしげ人形劇フェスティバル2021【徳島県松茂町】
凧博物館で遊び、凧文化を広げてみようプロジェクト【愛媛県内子町】
オムライス街道キックオフイベント【高知県日高村】

レギュラーリポート

20　移住・定住・交流推進支援事業　岩手県奥州市
探究学習を通じた地元愛の醸成
大越克芳

22　国内調査報告　埼玉県所沢市、東京都墨田区、石川県加賀市
音楽によるまちづくり

24　地方創生実践塾　徳島県美波町
にぎやかそ（にぎやかな過疎）を創る
吉田和史

26　地域づくりは人づくり
地域の中で人を育てる体制づくり
横山暁一

28　首長の思い
「暮らしたいまち日本一」を目指して
浅田敏彦（熊本県荒尾市長）

グラビア
手前みそですが…　【和歌山県太地町】

表紙 あすたむらんど徳島の魅力



あすたむらんど「風車の丘」に咲くネモフィラ

「あすたむらんど」とは、明日（あす）に多くの夢（たむ）がある場所（らんど）を意味します。遊びや体験を通して科学する心を育てる「子ども科学館」を中核施設とした、科学と自然にふれる大型公園です。

「子ども科学館常設展示場」では、約120種類の科学にまつわる展示物があり、体験を通して科学を学ぶことができます。また世界一の星の明るさを誇るプラネタリウムもあり、季節の星座や宇宙のお話を楽しむことができます。

吉野川めぐりや風車の丘のように天気の良い日には徳島県の四季や自然を肌で感じられる施設もある一方、子どもたちが楽しみながら自然に親しめる冒険の国や探検の国もあります。

四季折々でイベントも開催しているのでさまざまな楽しみ方ができるのが「あすたむらんど」徳島の魅力です。

（徳島県板野町）

問い合わせ先＝あすたむらんど徳島（088-672-7111）
（写真提供＝徳島県立あすたむらんど企画事業部）

ESSAY

巻頭エッセー

幸せ人口1000万

～ウェルビーイング先進地域、富山～



富山県知事 ● 新田　八朗

本県では、令和4年2月に、新型コロナによる厳しい社会経済情勢を乗り越えた先の、新しい富山県のさらなる発展に向けて、「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」の実現をビジョンとする「富山県成長戦略」を策定しました。

ウェルビーイングの向上を図ることにより、「新しい価値」や「新しい産業」を生み出す人材が富山に育ち、県外から引き寄せられて本県に集積することを戦略の核に据え、六つの柱で構成しています。

まず、①ウェルビーイング戦略で、県民一人ひとりのウェルビーイングの向上に取り組み、②まちづくり戦略で、ウェルビーイングの高い生活のできる個性的なまちづくりを進めます。また、③ブランディング戦略では、高まったウェルビーイングを富山県のイメージと結び付け、国内外へと発信し、県外からの多様な人材を呼び込みます。さらに、④新産業戦略と⑤スタートアップ支援戦略で、本県に集積した多様な人材により、新たな産業やスタートアップが創出され、併せて、⑥県庁オープン化戦略では、県庁そのものも変革し、政策づくりへの県民参加や行政サービスの向上を図ります。ウェルビーイングの向上が本県の発展につながり、さらなるウェルビーイングの向上が図られるという好循環を目指しています。

また、成長戦略の実行にあたっては、特に次の3点に重点を置いて取り組みを進めています。

一つ目は、まさに「ウェルビーイングの推進」です。一人ひとりがさまざまな人や社会とのつながりの中で、日々自分らしくいきいきと暮らし、幸せを実感できているかを把握するため、昨年9月に実施した県民意識調査の結果を踏まえ、昨年末に本県独自のウェルビーイング指標を策定しました。

令和5年度は、指標の活用により県民のウェルビーイングの認知度を高め、自分ごととして共感できるよう普及の取り組みを進めるとともに、自らのウェルビーイングが高まる行動を後押しします。また、指標を県の政策形成プロセスに活用し、多様な県民ニーズに届く施策を推進します。

二つ目は、「デジタルの活用」です。ウェルビーイング向上に向けて、県民や事業者のニーズを把握し、また、さまざまな社会課題の解決や、多様なニーズに届く施策を実施するためには、デジタル技術の活用が不可欠です。このため、デジタル技術を活用して地域課題を解決する実証実験プロジェクトを全国から募集し、全国的に先進的な取り組みを実施しています。「新しいデジタルの取り組みをするなら富山県」という評価を得られるよう取り組んでまいります。

三つ目は「官民連携の推進」です。ウェルビーイングは一人ひとりで異なることから、個性が尊重され、多様性を生かせる社会の実現が必要です。そのためには、より県民や事業者に近い民間との連携が不可欠です。

官民連携を推進するため、昨年4月に民間事業者からのワンストップ相談窓口を設けました。また、まちづくりや地域課題の解決につながる効果的な官民連携を推進する人材の育成に向けた研修も進めています。

このほか、今月、G7教育大臣会合が富山市と金沢市で開催されます。この機会に本県のウェルビーイングの取り組みを世界に発信していきたいと考えています。

今後とも県民の皆様とワンチームとなって、そして県外からも多くの皆様に本県に関わっていただきながら、成長戦略のビジョンである「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」の実現を目指してまいります。

第27回ふるさとイベント大賞表彰式・2023地方創生フォーラム in 東京を開催

地域活性化センターでは、2023年2月28日（火）に「第27回ふるさとイベント大賞表彰式」と「2023地方創生フォーラムin東京」を開催しました。当日は表彰式の様子や講師の講演などをユーチューブで同時配信し、多くの方にご視聴いただきました。

■プログラム

13：00～　第27回ふるさとイベント大賞表彰式
14：10～　2023地方創生フォーラムin東京
「地域資源を活用したローカル・スタートアップ」
【基調講演】藤原 岳史 氏（株式会社NOTE 代表取締役）
【事例発表】川本 恭治 氏（城南信用金庫理事長）
鍋屋 安則 氏（和歌山県田辺市企画部 たなべ営業室）
【施策説明】関口 龍海 氏（総務省 地域力創造グループ 地域政策課 理事官）



ふるさとイベント大賞表彰式出席者による記念撮影



地方創生フォーラムの様子



受賞団体挨拶　大賞「市場街」（高岡クラフト市場街）実行委員会

第27回ふるさとイベント大賞の概要

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントのさらなる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

今回で27回目を迎え、第26回までに、194の個性豊かなイベントを表彰しています。

今後も、ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流につながる地域の活性化を目指しています。

●応募対象イベント

2021年7月1日から2022年6月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベント。

※現在の状況を考慮し、オンライン開催も対象。また、規模の縮小や内容の変更などがある場合でも、イベントを継続することで、そのイベントが本来持つ意味を伝えようと創意工夫を凝らしているものも含む。

以下のいずれかに該当するイベントは対象外。

①直近の5回（第22回～第26回）に大賞、最優秀賞等各賞を受賞したイベント

②継続性がなく1回の開催のみで終了するイベント

●選考過程

イベント主催団体から、市区町村等を通じ、都道府県へ応募書類を提出していただきました。今回の応募総数は66件でした。

応募されたイベントについては、イベントプロデューサーや学識経験者等により構成される「第27回ふるさとイベント大賞選考委員会」において厳正な審査を行い、受賞イベントを決定しました。

なお、選考にあたり、右記の選考基準を基にイベント内容を総合的に判断しました。

●選考基準

	評価のポイント
企画	・地域資源を積極的に活用している。 （地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など） ・独創性に溢れ、新たな地域の魅力を創り出している。 ・多くの人をひきつける魅力がある。 ・魅力を増すための創意工夫が顕著である。
運営	・地域住民が積極的に参加している（参加することに誇りを持っている）。 ・地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。 ・継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。
効果	・地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。 （低予算でも波及効果が大きいなど） ・地域の知名度アップに貢献している。 ・地域住民の郷土意識の高揚につながっている。 ・伝統文化の継承や新しい文化の創造につながっている。

選考委員長の総評　北川 フラム氏（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役／アートディレクター）


【撮影：山本マオ】

今回のふるさとイベント大賞では、いつにも増して地域の特徴を生かしたプロジェクトに脚光があてられました。400年に及ぶ銅器、漆器制作の富山県高岡市では伝統工芸を含むクラフトの職人たちに、千葉県市原市では過疎化する里山地域の廃校、鉄道の魅力に、稲作の新潟市の西蒲区ではその稲藁に、北九州市の小倉では放置される竹林に、佐賀県は嬉野市の窯業地吉田では廃棄される窯道具にというふうにです。特産の影の部分に着眼することにより全体を賞揚するという新鮮な試みが登場してきたことは嬉しいことです。

埼玉県行田市の「花手水」や鳥取県境港市の「てぬぐいひらひら」も地域の特色を小粋に鮮やかに見せてくれるイベントですし、愛媛県は四国中央市三島高校の突出した部活動から生まれた「書道パフォーマンス甲子園」が地域の資源である紙をひっぱりだすという効果も生んでいます。一地域の特性を生かした生業と結びついてそれぞれの場所での意欲的な活動が成果を生んでいるという例が良くわかった今回の審査でした。

問い合わせ先

一般財団法人 地域活性化センター
地域創生部地域創生課

〒103-0027 東京都中央区 日本橋 2-3-4
日本橋プラザビル13階

TEL 03-5202-6136　FAX 03-5202-0755
E-mail：event@jcrd.jp　HP：https://www.jcrd.jp/



大賞　内閣総理大臣賞

市場街（高岡クラフト市場街）

2022年

9月23日（金）～25日（日）

【開催場所】高岡市中心市街地



評価のポイント

●クラフトのイベントを通して、鋳物など高岡ならではの伝統工芸や地場産業の振興につながる可能性がある。
●年々参加団体や業種が増え、高岡市全体の取り組みに成長している。富山大学と連携したきめ細かい対応が、訪問者の満足度につながっており、同種のイベントを開催している他地域のモデル的な取り組みとなっている。
●オンライン配信や番組制作は職人を前面に出す工夫をし十分インパクトがあり、訪問客やリピーターの増につながって、経済波及効果も高いものと考えられる。このイベントをきっかけに、移住者や創業者があるほか、大学生が学校の志望動機とすることもあるとのことであり、ますますの発展を期待できる。

次回開催日程

■開 催 日：2023年9月下旬（予定）
■開催場所：高岡中心市街地ほか
■問い合わせ先
・団 体 名　高岡クラフト市場街実行委員会
・メ ー ル　ichibamachi@gmail.com
・U R L　https://ichibamachi.jp、https://book.ichibamachi.jp

大賞

第27回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

市場街（高岡クラフト市場街）

「市場街（高岡クラフト市場街）」は、2012年に高岡中心市街地において「クラフト」をテーマとするイベントを開催したことにより始まりました。その後、毎年秋頃の実施を続け、2022年で11年目を迎えました。2012年の開催当初は10会場のみの取り組みでしたが、2016年から「工芸都市高岡の秋」としての統合イベントに成長することで会場数も増え、高岡の秋の風物詩ともなりました。2020年においてはコロナ禍による影響を受けるも「市場街TV」というオンラインプログラムを立ち上げることで活動の幅をさらに拡げました。

11年目を迎えた2022年は90を超える店舗やワークショップなど、コンテンツの数では過去最大の規模となりました。高岡の街を一望できる高岡中央駐車場の最上階を活用した「高岡クラフトマルシェ」や、山町筋観光駐車場で開催した「山町ワークショップストリート」などの新企画を通して、工芸やクラフト初心者の方でもクラフトやアーティスト作品を身近に感じていただけるようなイベントを実施し好評を得ました。また「工芸都市高岡2022クラフト展」「ミラレ金屋町」の同時期開催が再開し、3年ぶりに3大イベントが集う「工芸都市高岡の秋」となりました。それぞれのイベントにおいて、コロナ禍における感染対策を行いながら、オンサイトでリアルに楽しんでいただき、来場者同士や関係者とのリアルなコミュニケーションが行える場を提供することで、高岡の街ににぎわいが戻りました。また、2022年のグッドデザイン賞も受賞しました。

11年前の小さな取り組みが、今や高岡を代表する大きなイベントとなりました。毎年、首都圏から本イベントのために高岡を訪れていただくリピーターの方々も存在します。また、本イベントをきっかけとして首都圏から高岡に移住された方々や、開催エリア内に店舗を開業された方々も存在します。継続によって、数字だけではない、まちの活力を大きく推進する効果が出ているものと考えております。

主催者メッセージ



市場街は、開町400年を越える工芸都市、富山県高岡市において2012年にスタート。“ものづくり”を切り口に、クラフト、工芸、食、歴史と文化、音楽、そして何よりステキな人たちに出会える、来ればきっと高岡を好きになるまちの魅力全開のイベントです。今年の秋、高岡でお待ちしています！　Youtubeチャンネル「市場街TV」もぜひご覧ください。

高岡クラフト市場街
実行委員会委員長
國本 耕太郎さん







開催DATA

自治体名	富山県高岡市
自治体人口	165,933人 ※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	高岡クラフト市場街実行委員会
開催回数	11回（2012年度～2022年度）
開催日	2022年9月23日～25日（毎年秋頃）
開催場所	高岡中心市街地ほか
観客数	21,800人（「工芸都市高岡の秋」としては37,600人）









評価のポイント

●2000年代初頭から各地で開催されるようになった「里山型トリエンナーレ」の代表例として、アートによる地域資源の再発見や利活用を促進し、地域の活力創出に寄与することが期待される。
●町じゅうをアートで満たす大がかりなイベントは、アートの鑑賞だけでなく、町の魅力の再発見にもつながる。
●日本の美意識や郷愁の原点となる里山の再認識や若い人材を集めるためのアートを軸にした地域の活性化は、他のイベントと比べても大きな成果が期待できる。

次回開催日程

■開 催 日：未定
■開催場所：市原市
■問い合わせ先
・団 体 名　いちはらアート×ミックス実行委員会
・住　　所　〒290-8501 千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
・電話番号　0436-23-9872　・URL　https://ichihara-artmix.jp/

最優秀賞

第27回
ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020＋

2003年をピークに市原市の人口が緩やかな減少傾向をたどる中、市は2014年春、小学校の統廃合が進むなどその傾向が顕著な南部地域の里山自然を中心に、地域の活性化に向けた「課題解決型芸術祭」として、13カ国66組のアーティストを招いた第１回「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス」を開催しました。これを皮切りとして、これまでに計３回の芸術祭を開催しています。

芸術祭実施の背景としては、里山の保全などを目的に自発的に活動する市民団体がいくつも存在し、市域を南北に縦断する小湊鉄道沿線を菜の花で満開にする「花プロジェクト」をはじめとした地域の活動や、豊かな景観を持つ高滝湖畔にある「市原湖畔美術館」のリニューアルオープン、小湊鉄道の飯給駅の公衆トイレのアート化など、アートを活用したまちづくり推進の機運の高まりがありました。

この芸術祭の開催により、日本国内にとどまらず海外からの誘客にも成功し、本市の魅力を多くの方々に知っていただくことができただけでなく、地域に住む人々の誇りや自信にもつながる取り組みとなっています。

また、アーティスト、地域、行政に加え、「菜の花プレーヤーズ」と呼ばれるサポーター（ボランティア団体）の活躍により、作品の完成、芸術祭の成功といったゴールを一丸となって目指すプロセスは、回を重ねるにつれ、新たな交流・ネットワークの構築や、来訪者をもてなすおもてなしの心の醸成に寄与しています。

来訪者の方々には、作品を巡りながら里山の風景を楽しみ、豊かな自然の中で暮らす多くの市民のおもてなしの心に触れていただくとともに、市原市ならではののんびりした時間の中で市原を感じ、心を癒していただきたいと考えています。

現在は、芸術祭のレガシーを活かした「アーティスト・イン・レジデンス」を牛久地区で実施するなど、アートをより身近に感じることができる施策も進めており、今後もアートを媒介としたまちづくりの取り組みを展開していきます。

主催者メッセージ



いちはらアート×ミックス実行委員会会長・市原市長

小出 譲治さん

市原市は地方都市が抱える人口減少や少子高齢化等の諸問題をアートの力で解決すべく2014年から芸術祭を開催しています。過去３回の芸術祭で培った経験を礎に「アートを日常に感じられる」まちづくりに取り組み、魅力･共感･愛着を創出し「アートのまち＝市原市」のブランドを確立することで、持続可能なまちづくりを目指しています。



開催DATA

自治体名	千葉県市原市
自治体人口	270,085人 ※2023年１月１日現在
主催団体	いちはらアート×ミックス実行委員会
開催回数	3回
開催日	2021年11月19日～ 12月26日（月･火休場＝11月23日〈火･祝〉を除く）
開催場所	千葉県市原市 小湊鉄道を軸とした周辺エリア
観客数	110,354人







評価のポイント

●日本の自給食文化として切っても切れない稲作の収穫後の景観としても魅力的な取り組み。武蔵野美術大学の学生との協働やそのデザインを実現するためのボランティア（地域住民や農業従事者など）の存在が作品の魅力やイベント拡大のエネルギーとなっている。
●武蔵美の学生有志と地域住民や教育機関の共同作業による今後の展開、発展に期待したい。
●とても独創的で迫力があり、わらを使うという点がとてもユニークである。

次回開催日程

■開 催 日：令和5年8月下旬～ 10月31日（予定）
■開催場所：上堰潟公園
■問い合わせ先
・団 体 名　新潟市西蒲区産業観光課
・住　　所　〒953-8666 新潟市西蒲区巻甲2690番地1
・電話番号　0256-72-8417

優秀賞

第27回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

わらアートまつり

新潟市西蒲区のシンボル角田山の麓に広がる風光明媚な上堰潟公園に、動物などをモチーフとした巨大なオブジェを展示する「わらアートまつり」は、米どころ西蒲区の黄金色の稲わらから誕生した、迫力あり、愛嬌ありの躍動感あふれる巨大アートのフェスティバルです。

わらアートは現在では日本各地、海外でも制作されていますが、その発祥は西蒲区で、以前より交流のあった東京都の武蔵野美術大学の教授や学生たちが、「コシヒカリの国で米を収穫した後のわらを活用して造形物を作りたい」と試行錯誤し誕生しました。

第13回となる令和３年度は、武蔵野美術大学の学生たちがアートのテーマやデザインを考案・制作、地元の学生や市民サポーターが現地でのアート制作を担当し、３体の作品を制作し、８月下旬から10月下旬まで約２カ月間展示しました。テーマは、その年の社会情勢などを表現したもので、この年は、厄よけやコロナ禍からの復活、希望を願い、「見た人に活力を与える縁起物」とし、「アマビエ」「鳳凰」「三角達磨」の３体を制作しました。

わらのほかにわら縄やムシロを用いて細部までこだわった作品はリアリティにあふれるものとなり、老若男女すべての人に感動を呼び起こし、親しまれています。

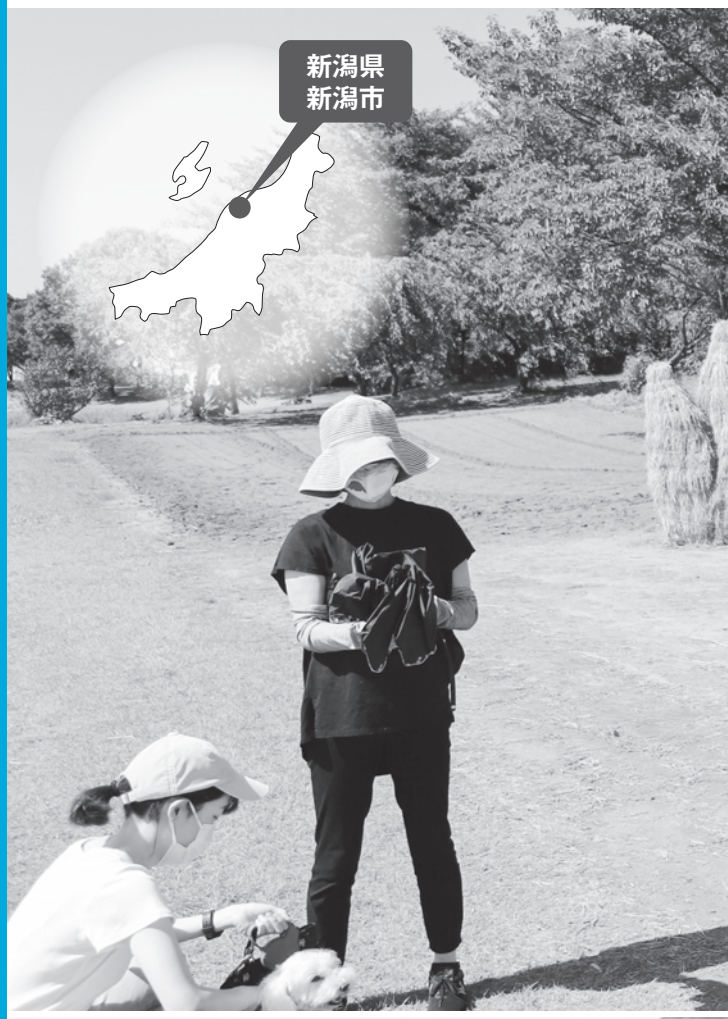
また、まつりの期間中には西蒲区を始めとした県内の農産物や郷土料理などのグルメを販売する「西蒲市場」が出店し、アートの鑑賞とともに西蒲区の味をのんびりと楽しんでもらっています。

主催者メッセージ



新潟市最大の農業地域で、コシヒカリを始めとした米どころ西蒲区ならではの、稲わらを活用した巨大アートの祭典。ただ大きいだけでなく、顔の表情や毛の流れの一本一本など、わらを用いて細部まで手を抜かずこだわって作り上げた、生き生きとして躍動感あふれる作品を、ぜひ現地でご覧いただきたいです。

新潟市西蒲区産業観光課
主査
毛嶋 直喜さん





開催DATA

自治体名	新潟市（西蒲区）
自治体人口	773,914人（市全体）、54,234人（区全体） ※令和４年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	新潟市
開催回数	13回（令和4年の開催で14回）
開催日	令和3年8月29日～ 10月31日
開催場所	上堰潟公園
観客数	51,112人







評価のポイント

●放置竹林対策とともに、伐採した竹を灯籠に加工して幻想的な竹灯籠の灯で集客を図る発想はすばらしく、3万個というスケールもみごと。
●日本各地に伝わる「竹」との共生の姿は、現在の生活スタイルからどんどん遠ざかり、その関係が希薄化しており、竹林の美しい景観、麗しい緑を持続可能にする「管理」も大きなテーマである。そういった点で、資源や文化を生かし継承することの大切さを伝えるイベントとなっている。

次回開催日程

■開 催 日：2023年11月2日～ 5日
■開催場所：小倉城・虎ノ門周辺
■問い合わせ先
・団 体 名　小倉城竹あかり実行委員会
・住　　所　〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町3丁目3-20
・電話番号　070-8376-7103　・URL　http://kokurajotakeakari.com/

優秀賞

第27回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

小倉城竹あかり

北九州市は、九州地方の玄関口として栄えた歴史を持ち、かつては四大工業地帯の一端を担ったが、1979年をピークに人口減少が続き、2020年における高齢化率も全国の政令指定都市の中で最も高く、人口減少と高齢化が問題になっている。北九州市における行政・経済・交通の中心である小倉エリアの求心力の保持と活性化は急務であり、にぎわいの創出は非常に大切なポイントである。そこで４年前（2019年６月）に私たちが考えたのが、北九州市の地域資源を大いに利用しながら、都市の魅力や活力創出やアイデンティティーを形成する試みである。その地域資源とは、福岡県唯一の天守閣「小倉城」と、全国に名高い「小倉合馬の竹」である。この二つを駆使し、北九州市民力で始められたのが「小倉城竹あかり」である。

「小倉城竹あかり」は、以下の三つのコンセプトに基づいて開催している。

「竹害を竹財へ SDGs 環境循環型社会の実現」

放置竹林の環境問題を市民に啓発する目的で、竹を伐採し竹灯籠（どうろう）に形を変え、小倉城に幻想的な景観を創る。多くの人に観ていただいた後は、その竹を土壌改良剤や肥料に再利用する。

「北九州市民のボランティア力」

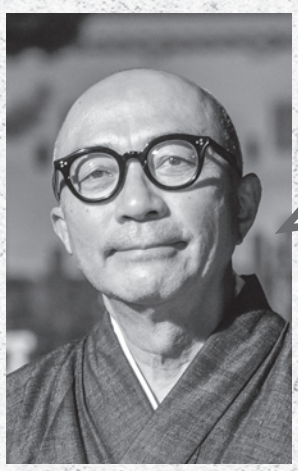
子どもたちや学生、中高年の皆さんにボランティアとして参加いただくことで、地域貢献や世代間交流の機会を提供する。竹灯籠を作ったりロウソクに灯したりすることで、参加する楽しみや愛郷心を育む。

「観光推進」

北九州市は、日本新三大夜景都市に選定された。国内外から１泊２日で北九州市にお越しいただける仕組みづくりを考える。中心市街地の回遊性・にぎわいを演出し、北九州市を代表する秋冬の風物詩とする。

昨年11月の第４回開催では、竹材約40トンを小倉南区の竹林から伐採。市民力で灯りの数 約30,000個を作成。それを小倉城に飾り、観覧者数46,000人、ボランティア数約３,500人。イベント終了後は、土壌改良剤や竹炭などとして周辺地域のイベントで再利用・再資源化され、数々の成果を残している。

主催者メッセージ



小倉城竹あかり実行委員会
委員長
辻 利之さん

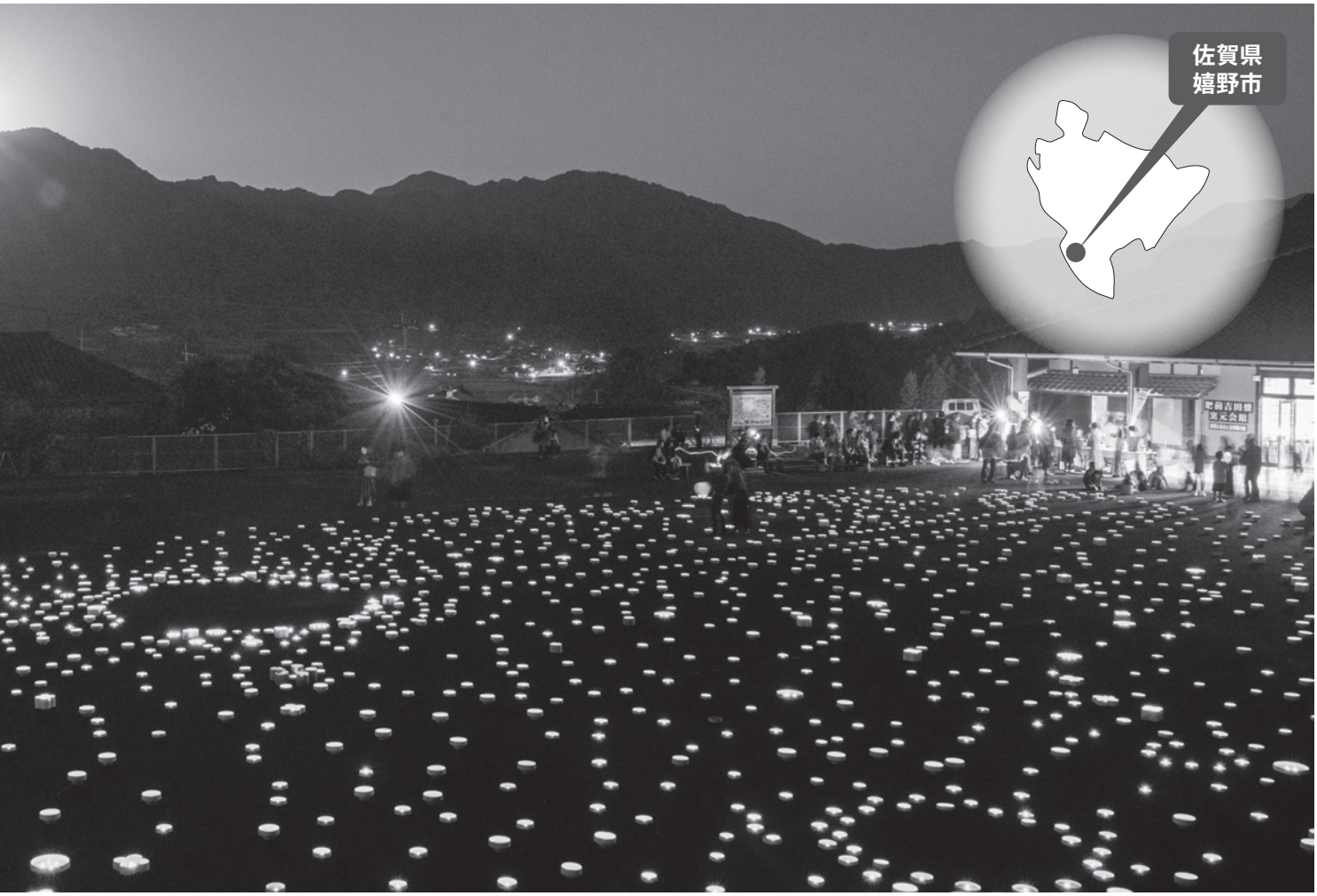
小倉城竹あかりの見所は、福岡県内唯一の天守閣である小倉城の下で6000個の竹の灯りが灯る「銀河」エリアと、市内の約8000人の小学生の未来への思いが描かれた8000個の「SDGs竹紙灯籠」エリアです。加えて高校生や商店主による「竹の商品作り」もあります。厄介者の竹を利用し観光推進に役立て、その後は小さいながらも商品作りで環境＆経済の循環を試みる、SDGs教育の一環です。





開催DATA

自治体名	福岡県北九州市
自治体人口	923,342人 ※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	小倉城竹あかり実行委員会
開催回数	4回
開催日	2022年11月2日～ 11月6日
開催場所	小倉城・虎ノ門周辺
観客数	46,000人







評価のポイント

●本来は廃棄物となる焼物のまち特有の「ボシ」を資源として活用するアイデア、さらにアートや食などと結びつけて広がりを持たせる発想がよい。
●「ボシ」と「暗さ」といういわば負の財産を掛け合わせて新たなイベントを立ち上げたところに好感を感じる。4000個という数も魅力。
●陶磁器生成の道具を使った素朴な表現や地域の人の連携で、新たなデザインによる商品開発やレストランとのコラボレーションなど、今後の拡張性や多彩な魅力づくりの可能性を秘めたイベントである。

次回開催日程

■開 催 日：2023年10月7日、8日予定
■開催場所：佐賀県嬉野市嬉野町吉田皿屋地区
■問い合わせ先
・団 体 名　吉田皿屋ひかりぼし実行委員会
・住　　所　〒843-0303 佐賀県嬉野市嬉野町吉田丁4525-1
・電話番号　0954-43-9322

優秀賞

第27回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

吉田皿屋ひかりぼし

「吉田皿屋ひかりぼし」は肥前吉田焼の産地である佐賀県嬉野市吉田地区の窯元に眠っている約4000個の「ボシ」を活用した灯りのアートイベントです。

佐賀県内の磁器産地としては有田や伊万里があり、嬉野市の近隣には波佐見焼、三川内焼もあります。肥前吉田焼も含めてこの五つの産地は同じ土で同じ焼き方をしているため、差別化が難しく、有田同様400年以上の歴史がありながら知名度が低いのが吉田焼です。吉田焼を全国区にしていくために、大きな産地ができないようなことを仕掛けていかなければいけないと課題を感じております。

そのような中、吉田地区の夜間の「暗さ」と産業廃棄物となる窯道具の「ボシ」に地域資源としての価値を見出し、佐賀県内のクリエイターの掘り起こしと沢山の子どもや若い人たちに何かを感じてもらうような、他産地で開催されている陶器まつりとは一線を画すアートイベントを企画、実施しています。これを定着させていくことにより、「肥前吉田焼の認知度向上」「ファンの獲得」「焼き物とアートを身近に」という目的へつなげ、地域の基幹産業である窯業振興、またそれによる地域全体の活性化に資するために活動しております。

「ボシ」とは効率良く窯詰めするための入れ物、つまり窯道具で、時代の流れと共に使われなくなったボシが吉田には約３万個あると言われています。「ひかりぼし」とはこのボシを再利用して淡い光を灯したもので、吉田地区の夜間の「暗さ」により際立つきれいな空の星と約4000個の「ひかりぼし」を楽しんでいただける仕掛けをし、地域全体が焼き物の産地ならではのインスタレーションとなっております。

イベントの実施にあたっては、地域の窯業関係者はもちろんのこと地域住民もスタッフとして巻き込んで運営を行い、「焼き物×アート」「焼き物×食」「焼き物×私」の三つのテーマを軸に、ひかりぼしの展示に加え、窯元の工場やお寺、倉庫を活用したアート展示、ミシュランシェフとのコラボレーションなどを仕掛け・工夫を凝らした多数のメニューを準備いたしました。来場者からは良好な反応を得ることができました。

主催者メッセージ

焼き物の産地ならではの窯道具を使った4000個の灯りと、きれいな夜空を楽しんでいただくイベントです。

窯元のナイト営業や工場見学もおこない、ミシュランシェフによる器付きの食事の提供や近隣のアーティストによる展示もおこなっております。



吉田皿屋ひかりぼし実行委員会
委員長
辻 諭さん





開催DATA

自治体名	佐賀県嬉野市
自治体人口	25,088人 ※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	吉田皿屋ひかりぼし実行委員会
開催回数	4回
開催日	2022年10月
開催場所	佐賀県嬉野市嬉野町吉田皿屋地区
観客数	1,500人









評価のポイント

●神社への参拝客への癒やしを目的に始められた花手水を、街全体に面的に広げ、各商店への誘客につなげていくアイデアが実を結び、経済波及効果や継続性も見込まれる。
●まちの散策マップの作成やライトアップでのインパクト。毎月定期的な開催により事業のPR効果も高まり、今後の発展が期待できる。
●行田八幡神社の花手水の歴史的な由緒を始まりとし、その可憐で繊細な美しい花のアレンジメントが現代の若い世代にも話題となっている。

次回開催日程

■開 催 日：R5. 5. 6、R5. 6. 3、R5. 9. 2、R5. 10. 7、R5. 11. 18、R5. 12. 2
■開催場所：忍城址など前年と同様
■問い合わせ先
・団 体 名　行田市
・住　　所　〒361-8601 埼玉県行田市本丸2番5号
・電話番号　048-556-1111（内線382）
・URL：https://www.city.gyoda.lg.jp

・団 体 名　一般社団法人行田おもてなし観光局
・住　　所　〒361-0077 埼玉県行田市忍2丁目1番8号
・電話番号　048-577-8442
・U R L　https://www.gyoda-kankoukyoukai.jp

ふるさとキラリ賞

第27回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

行田花手水week及び希望の光

「コロナ禍において、参拝していただいた方々に癒しを提供したい」との思いから、令和２年春に行田八幡神社で「行田花手水」は始まりました。その後、ＳＮＳなどで話題となり、地域への来訪者が増加していく状況を見て、市職員が「神社周辺の商店街にもにぎわいを」と周辺の店舗や民家に声かけをし、毎月２週間限定で軒先に花手水を飾る「行田花手水week」につなげていきました。その後も城下町や足袋生産地として栄えてきたことを体現する「忍城」や「足袋蔵」等歴史的建築物と花手水を組み合わせ、話題性を創出することで、徐々に地域ににぎわいが生まれてくると、店舗や民家の参加者もさらに増え、現在では、約100カ所の花手水が行田のまちを華やかに彩っています。

さらに、令和３年春からは「希望の光」と題し、毎月一夜限定で、ライトアップも始めました。「行田花手水week」に参加する商店や民家の花手水をライトアップする他、メイン会場となる「忍城」と「行田八幡神社」、「前玉神社」では、花手水をはじめ、城や社殿のライトアップ、和傘や竹灯籠など市職員や各施設スタッフ自らによる幻想的な演出で、来訪者に希望の光を灯しています。

「行田花手水week」及び「希望の光」ともに、開催期間になると商店主や住民自らが花手水を準備しており、地域が主体となった持続性のある取り組みとなっています。また、一般社団法人行田おもてなし観光局により、「行田花手水」をテーマとした着地型旅行商品の企画・造成や土産品の開発等も積極的に行っており、来訪者の増加を地域経済の活性化にもつなげています。引き続き、当イベントを官民連携により推進していくことで、本市の知名度向上や地域経済の活性化等を図るとともに、「忍城」や「足袋蔵」などの歴史的遺産を将来に継承していきます。

主催者メッセージ



行田市環境経済部
商工観光課長
森原 秀敏さん

「忍城」や「足袋蔵」など行田の歴史を体現する建造物が花手水で彩られている姿は、行田花手水ならではの見所です。また、中心市街地に位置する神社や商店、民家など約100箇所が趣向を凝らした花手水スポットとなっており、“花手水のまち行田”に彩りを添えています。忍城を中心に毎月一夜限定のライトアップも行っていますので、これを機にぜひ、行田まち歩きをお楽しみください。



開催DATA

自治体名	埼玉県行田市
自治体人口	78,741人 ※令和４年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	行田市、一般社団法人行田おもてなし観光局
開催回数	行田花手水week21回、希望の光11回
開催日	行田花手水weekは毎月1日から14日　※11月と1月は15日から末日、希望の光はR3. 7. 3、R3. 10. 2、R3. 11. 20、R3. 12. 4、R4. 1. 15、R4. 4. 2、R4. 5. 7、R4. 6. 4に開催
開催場所	忍城址、行田八幡神社、忍城址と行田八幡神社周辺エリアの商店・民家、前玉神社
観客数	21,492人（希望の光観客数） ※行田花手水weekの観客数は未把握









評価のポイント

●小規模なイベントながら、色とりどりのてぬぐいが街中で風になびく光景は、見てみたいと思わせる魅力がある。
●日本の色彩豊かで身近な生活用品である「手ぬぐい」が風や光の中で空に舞う造形は美しい。「伯州綿」を生かして食にもつなぐユニークな展開や人とモノをつなぐ「平和」や「人の和」を体現したとてもさわやかで魅力的なイベントである。
●ただ飾るのでなく「ひらひら」見せるというのがすてきである。

次回開催日程

■開 催 日：令和5年11月3日、4日（予定）
■開催場所：海とくらしの史料館（鳥取県境港市）
■問い合わせ先
・団 体 名　境港市役所農政課
・住　　所　〒684-8501 鳥取県境港市上道町3000
・電話番号　0859-47-1049

ふるさとキラリ賞

第27回 ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

てぬぐいひらひら



鳥取県境港市は、砂州で形成された弓ヶ浜半島の先端に位置し、最盛期は国内有数の綿の産地でした。鳥取県西部は、「伯耆の国＝伯州」と言われていたことから、境港市で栽培される綿は「伯州綿」と呼ばれるようになりました。

しかし、明治時代後半の関税撤廃を機に、外国から綿の輸入が増え、国内の綿の生産は減少し、伯州綿も衰退していきました。

そこで境港市は、平成20年度から失われかけた綿畑を再興し、江戸時代から守られてきた伝統的な地域資源を後世へ継承していく取り組みを始めました。

地域のボランティアの方々（伯州綿栽培サポーター）や地域おこし協力隊とともに、農薬や化学肥料を使わずに、手作業で綿づくりを行っています。

伯州綿にもっと多くの方々に親しんでいただき、もっと知ってもらうために、伯州綿を使った手ぬぐい（境港手拭）を製作して、当イベントが誕生しました。

「境港手拭」と全国から集めたご当地手ぬぐいを“ひらひら”させる当イベント「てぬぐいひらひら」は、平成29年度から毎年秋に開催しています。

令和３年度（第５回）は、全国各地から集めた134種類の手ぬぐいを、会場（海とくらしの資料館）の中庭に展示しました。会場内では、展示した手ぬぐい全種類を購入することができます。来場者のみが手ぬぐいの人気投票に参加することができ、投票者の中から抽選で手ぬぐいのプレゼントが当たります。

会場には、弓浜絣や伯州綿マスク等の伯州綿製品を製作する地元事業者や、パンやドーナツ等を販売する市内の福祉作業所が出店して、一緒にイベントを盛り上げました。

また、市内の小学生が伯州綿の茎を原料にして作った和紙の作品を展示したほか、畑までバスで移動しての伯州綿の収穫体験や、種を取り除く綿繰り体験を実施し、伯州綿をPRしました。

色とりどりの手ぬぐいが秋空を“ひらひら”する様子は、地元住民だけでなく、観光客も引きつけており、開催を楽しみにするリピーターも増えています。

主催者メッセージ



見どころは、130種類を超える手ぬぐいが“ひらひら”と秋空を彩る様子です。写真で見るよりも、会場で実際に見た方がきれいですので、ぜひ会場にお越しください。また、境港市で江戸時代から続いてきた伝統的な「伯州綿」はとっても触り心地が良い綿です。「伯州綿」を原料に使った手ぬぐいは、肌触りがとても良いですよ。

境港市役所産業部農政課
農業振興係長
森山 謙吾さん

開催DATA

自治体名	鳥取県境港市
自治体人口	32,977人 ※令和４年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	境港市、 一般財団法人境港市農業公社
開催回数	5回（応募後、6回目を開催）
開催日	令和3年10月30日、31日 （令和4年10月29日、30日）
開催場所	海とくらしの史料館
観客数	1,330人（R4：1,384人）







評価のポイント

●高校生による手作りの全国イベントに育て上げたパワーと発信力がすばらしい。実際の大会参加者は限定されるが、多くの企業が協賛し、報道関係の発信が盛んで、全国的な注目度は計り知れないレベルに達している。
●書道を「チームの演技」にしたことが新鮮で、高校生の心を捉えたものと思われる。全国の書道部に所属する高校生が目標とするイベントとしてさらに発展することが期待できる。
●書を支える素材としての紙の産地として名高い地域で、今後の地産地消を活性化するさらなる発展も期待できる。

次回開催日程

■開 催 日：令和5年7月23日（日）
■開催場所：伊予三島運動公園体育館（愛媛県四国中央市中之庄町1665-1）
■問い合わせ先
・団 体 名　書道パフォーマンス甲子園実行委員会事務局
・住　　所　〒799-0497 愛媛県四国中央市三島宮川4-6-55四国中央市教育委員会事務局
　　教育管理部　文化・スポーツ振興課　書道パフォーマンス甲子園振興室内
・電話番号　0896-28-6037　・URL　https://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/site/shodo-performance/

選考委員特別賞

第27回
ふるさとイベント大賞

選考委員会委員長表彰

書道パフォーマンス甲子園（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）

書道パフォーマンス甲子園は、日本一の紙のまち四国中央市で毎年夏に開催される書道パフォーマンス日本一を決める高校生の大会です。12人以内でチームを編成し、６分間の演技の中で音楽に合わせて趣向を凝らしたパフォーマンスをしながら、縦４㍍×横６㍍の巨大な紙に作品を書き上げます。

書道パフォーマンスは、地元の愛媛県立三島高等学校書道部が、書道でまちを元気にしたいとの思いから、地域のイベントや文化祭などで音楽に合わせて大きな紙に歌詞などを揮毫する書のデモンストレーションを行っていたことがテレビで取り上げられて全国に広がりました。平成20年に商店街の一角でわずか３校の参加により第１回大会を開催し、現在では100校を超える応募がある大会となり、書道パフォーマンスを行う高校生にとって「夢の舞台」と呼ばれています。

令和３年に開催した第14回大会は、102校の中から予選審査を勝ち抜いた21校が当市で行われる本戦に出場しました。さらに、コロナで中止とした第13回大会に参加する予定だった当時の高校３年生が出場できる「19歳の部」を設け、５校が演技を披露しました。

大会は高校生による高校生のための大会づくりを目指し、高校生企画員と呼ばれる約70人のボランティアが半年以上の期間をかけて、キャッチコピーやポスターデザインの選定をはじめ、選手や観客へのおもてなし企画などを考えています。また、歓迎のあいさつや司会などの重要な役割を担うほか、当日はさらに50人ほどの高校生ボランティアが加わり、演技場の墨拭きや演技審判、選手誘導を行うなど、高校生の活躍によって大会は成り立っています。

令和５年７月23日には第16回大会の開催が予定されています。一度見ればパフォーマンスや作品の迫力、そして熱量に圧倒され、必ず魅了されるはずです。書道パフォーマンスの聖地四国中央市で、高校生の夢舞台をぜひご覧ください！

主催者メッセージ



大会の半分以上、私は涙する。高校生の思いや熱量がダイレクトに伝わり、感情が止まらないゆりかごのように揺さぶられる。書道パフォーマンス甲子園はそんな大会。

観に来てほしい！　いや観るべきだ！

皆さんの観覧をお待ちしています。

四国中央市教育委員会事務局教育管理部文化・スポーツ振興課書道パフォーマンス甲子園振興室長

守屋 伸康さん





開催DATA

自治体名	愛媛県四国中央市
自治体人口	83,426人 ※令和４年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	書道パフォーマンス甲子園実行委員会
開催回数	14回
開催日	令和3年7月25日（日）
開催場所	伊予三島運動公園体育館（愛媛県四国中央市中之庄町1665-1）
観客数	400人（保護者・学校関係者のみ） ※一般観覧は中止

移住・定住・交流推進支援事業

（岩手県奥州市）

探究学習を通じた地元愛の醸成

―地元高校生とのつながりから将来的な定住へ―



奥州市上下水道部経営課課長補佐
兼浄化槽法適化準備室副主幹
● 大越　克芳

都市から地方への移住・交流は、人口減少社会における地域活性化策の柱として期待される。地域活性化センターでは、「移住・定住・交流推進支援事業」として、地域団体もしくは市町村等が自主的・主体的に都市住民を受け入れる事業などを支援している。同事業を活用した岩手県奥州市の取り組みについて、奥州市上下水道部の大越克芳氏にご紹介いただいた。

（企画・人材育成グループ）

奥州市は、岩手県南部、東北の中心部に位置し、新幹線や高速道路、空港なども活動距離範囲内にあり、おいしい農作物、全国有数のロックフィルダムの胆沢ダムやブラックホールの撮影に成功した国立天文台水沢ＶＬＢＩ観測所があるなど、暮らしやすい街です。また、高野長英や後藤新平、斎藤實などの多くの先人が輩出しており、ＭＬＢで二刀流として活躍している大谷翔平選手の故郷として、グローバルに活躍する人を育むまちでもあります。

当市は、平成18年2月に2市2町1村が合併する形で誕生し、合併当初は約13万人の人口でしたが、それから17年が経過し、令和5年1月末では約11万人の人口となっており、全国の地方自治体が直面している人口減少が大きな課題となっています。

若者世代の社会減抑制へのアプローチ

人口減少の要因としては、自然減もさることながら、若い世代が進学や就職によって市外に転出する社会減が大きな課題となっています。これまでも社会減の改善に向けた施策を実施しているものの、大きな効果を得るまでにはいたらず、多くが転出をしたまま地元に戻ってくることがないのが現状です。社会減の抑制・改善に向けては、外からの移住者を増やすことが近道ではありますが、市と何のつながりもない方を呼び込むことには限界があるため、視点を変え、住んでいる方に住み続けてもらう、一度転出した方に何かしらのタイミングで戻ってきてもらうことを目標に掲げ、新たなアプローチをしていくことにしました。

新たなアプローチを模索している段階で、後に一緒に事業を行うこととなる「一般社団法人いわて圏」（以下、いわて圏）と地元の「水沢高等学校」（以下、水沢高校）の探究学習の担当教諭から、市と学校が連携した形で探究学習を進めていくことが出来ないかと相談をいただきました。いわて圏は関係人口、移住・定住、地域おこし協力隊や社会教育分野等において、これまでも多くの事業を手掛けてきており、さまざまなノウハウを持っています。水沢高校では、令和4年度からの探究学習の本格導入を前に、事前の準備を進めており、市と連携することで、よりよい学習につなげていくことを目的として、探究学習「マイプロジェクト」活動が始まりました。

マイプロジェクトは「地域」をフィールドに身の回りの課題やテーマを発見し、小さなプロジェクトや行動を行う実践型プログラムのこと。高校の総合的な探究の時間などで導入が進んでいます。

「マイプロジェクト」への取り組み

令和3年度から活動をスタートしましたが、はじめは手探り状態でした。市はイベント等で高校との連携はあったものの、学習に関する継続的な関係の蓄積は乏しく、さまざまな知見を有するいわて圏を中心に取

り組むことにしました。

まずは、高校生に地元の状況を知ってもらうため、さまざまな分野で活動している大人をゲストとして招聘し、普段の活動状況を話してもらう講演会を開催し、生徒の関心を膨らませました。2回の講演会を行った後、1年目の活動のまとめとして「キラキラしている大人のお仕事の輝きを伝える」というテーマで、講演会に協力いただいた地元の企業・団体や市役所の部署ごとのプロモーションビデオを作成し、地域の理解を深めました。

令和4年度の活動は、生徒3、4人で班を編成し、班ごとに生徒自身が興味のある目標を設定した上で、目標達成に向けた活動を行うこととしました。机上での調べ物で終わらせず、地域で実際に活動している大人と情報交換を行い、アクションすることを目標に取り組みました。

生徒たちは、いわて圏のスタッフ、市担当者などからのアドバイスを取り入れ、夏季アクション（課題の発見）、秋季アクション（解決の試行）、冬季アクション（改善の実践）を行い、自分たちの活動をまとめました。最終的に水沢高校から、令和5年1月22日に開催された「MY PROJECT AWARD 2022 岩手県Summit」に次の4件の活動報告を行い、県内の高校生との交流を深めました。

①人間の人間による人間のための芸術
②作ろう！ 恐竜のまち「いわて」
③福祉ネイルを広げて、つなげて
④子どもたちとともに楽しい思い出を作ろう

探究学習を通じた地域愛の醸成により、将来的な移住・定住につなげていく取り組みは、若い世代、特に高校生をターゲットとしているため、短期での結果は出にくい状況です。実際に取り組んだ高校生が卒業、進学後の就職などの際に、住み続けてもらう、ふるさとに戻ってきてもらう、その選択肢となることが目的であり、中長期的な活動の継続が必要です。

市内の3高校と協定結び探求学習推進

これまでの活動を通じたもう一つの大きな成果として、高校との関係の強化が挙げられます。若者世代が住みたいと思えるまちづくりを進めるためには、実際に住む若者世代の意見を取り入れなければ良いものになりません。高校とのつながりをさらに深め、市のさまざまな課題等に対して、高校生から意見を聴く機会も積極的に設けていく予定です。

現在、市では水沢高校を含め3つの高校と協定を締結し、探究学習の推進に取り組んでいます。これまではそれぞれの学校と市が1対1の状態で連携していますが、他の学校の取り組み方や内容が参考となる部分も多く、今後は学校同士での情報共有も行い、活動自体も連携することで、より大きな地域愛を醸成し、将来的な移住・定住につなげていきたいと考えています。


マイプロジェクトに取り組む高校生たち


岩手県 Summit での発表の様子


胆沢ダム周辺でのカヌー体験の様子

音楽によるまちづくり
―音楽の力で人々の心や生活を豊かに―

埼玉県所沢市、東京都墨田区、石川県加賀市

近年、自治体が音楽団体やコンサートを支援したり地域密着型の音楽イベントが開催されたりするなど、全国各地で音楽を活用したまちづくりが行われている。こうした取り組みは、音楽の力によって人々の心や生活を豊かにするだけでなく、地域外の人を地域に呼び込むことで関係人口の拡大や地域経済の活性化にもつながる。音楽が地域の活性化にもたらす効果やその特性、成功している要因について３地域の調査を行った（2021年度調査）。

音楽のあるまちを目指して

埼玉県所沢市は、あらゆる世代の市民や所沢市を訪れる人に、音楽を演奏する機会、聴く機会を身近なものとし、豊かな音楽文化が持続的に発展することを目的に、「音楽のあるまちづくり」に取り組んでいる。

市は所沢市の音楽情報発信サイト運営団体「ptoko（ピートコ）」と連携し、地域に根付いて定期的・継続的に開催している音楽イベントや団体・店舗等について「音まち推奨制度」を設けている。推奨が決定されると、その証しとして「音まち推奨」のロゴマークを表記できるほか、市のSNSによってイベント情報が発信される。また、市内で生演奏を聴いたり、自ら演奏したりしながら音楽を楽しむことのできる店舗や施設を紹介するガイドマップ「音まちMAP」を作成している。音楽に触れられる市内の場所を数多く紹介し、市民や市内を訪れる人が騒音から逃れて日常的に音楽を楽しむ場所を訪れやすくすることで、市民の生活に音楽を根付かせ、うるおいと安らぎを提供している。



音まち MAP vol.3（所沢市）

市民に気軽に音楽を楽しんでもらうため、商業施設や駅前など市民が集まる場所で音楽に触れるイベントも開催している。2021年9月からは、所沢駅の改札前広場に市民から寄付されたピアノをストリートピアノとして設置した。市民には、音楽を身近に触れることのできる憩いの場として受け入れられている。

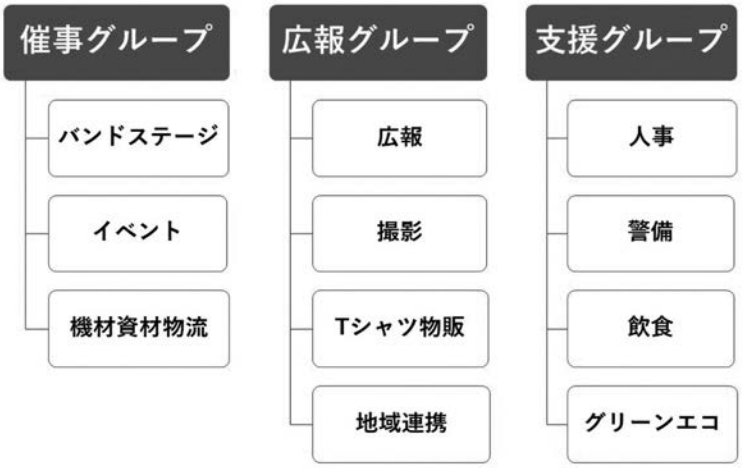
市民ボランティアが作る音楽イベント

「すみだストリートジャズフェスティバル」は、2010年から毎年東京都墨田区内で開催されているイベントである（コロナ禍により2020、2021年は中止）。2日間の開催期間中、区内に設置された数十カ所のステージでプロのアーティストやアマチュアバンドによりジャズが演奏され、街中に生の音が鳴り響く。入場料は完全無料で、誰でも気軽に参加できる。リーマンショックによる世界金融危機の影響が残る2010年、会社経営者の能厚準氏と山田直大氏が「墨田区を活性化させるイベントをやりたい」という思いで立ち上げた。

「自分たちが楽しめることをやる」を企画のコンセプトとして、イベンターの力を借りず、すべて市民ボランティアにより運営されている。ボランティアの数は1000人を超え、国内外さまざまな場所から参加

している。

また、区内のステージは最大で47カ所まで増加し、〝会場は街全体〟というイベントになっている。1日約15万人が利用する錦糸町駅近くにある錦糸公園にメインステージを設置して人が会場に流れやすくし、また駅前広場のほか区内の至る所にステージを設置している。地域住民だけでなく、区外の人々が墨田区内を周遊することで、墨田区の魅力を効果的に発信することができ、関係人口・交流人口の増加につながっている。開催初年度2万人だった来場者数は、2019年には10万人に達した。（主催者発表）



ボランティアスタッフの組織図（墨田区）



加賀温泉郷フェスの様子

音楽イベント×地域の魅力発信

「加賀温泉郷フェス」は、石川県の加賀温泉郷で2012年から毎年7月に開催されている音楽イベントである（2020、2021年度はコロナ禍の影響で中止）。「温泉と音楽の融合」をコンセプトに開催され、旅館「瑠璃光」内の宴会場や会議場、ラウンジスペースなどを利用した複数の会場で、Jポップやロック、アイドル、ダンスミュージックなど多岐にわたるジャンルのアーティストがライブを行う。イベントの運営は、地元の観光協会や旅館組合、商工会等の若者が中心になって行っている。

よろづや観光株式会社代表取締役の萬谷浩幸氏が、東北の文化である芋煮会と音楽を組み合わせたイベント「風とロック芋煮会」（福島県）に参加したことで、音楽イベントと観光を組み合わせることの可能性に気づき、加賀温泉郷で音楽イベントを開催することを決めた。

出演者は、旬のアーティストよりも地下アイドルやインディーズのロックバンドなどのニッチでサブカルチャー寄りのアーティストを選出し、加賀温泉郷にしかできない地域体験型の独自のフェスを創り出している。

また、フェスの開催中に九谷焼の制作や加賀棒茶を入れる体験など、地元の魅力を伝えるワークショップを多数開催し、県外から来た多くの客が参加する。フェスを通じて加賀温泉郷の魅力を効果的に発信することで、アーティスト目当ての客だけでなく加賀温泉郷のファンを増やし、交流人口や関係人口の増加を実現している。

音楽を地域活性化の起爆剤に

今回調査した事例では、それぞれ市民がイベント等に気軽に参加でき、参加することに価値を見出し継続的に参加したくなるような仕組みを作っていた。また、音楽イベントでは、利益を追及するのではなく、市民の生活の質の向上や地域の活性化、地域外の人に向けた地域プロモーションを主目的としていた。このように、音楽を活用した地域づくりにおいては、音楽イベントを行うことが主目的化してしまわないような仕掛けづくりが重要となる。近年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって各種イベントの開催が制限されていたが、現在では各種イベントや行事が再開されている。ポスト・コロナ時代においては、音楽をはじめとしたエンターテインメントが地域活性化の起爆剤として重要な位置を占めるのではないだろうか。

地域活性化センター副参事
●西田 周平
広島県地域力創造課
●妹尾 莉菜
（前地域活性化センター副参事）

地方創生実践塾　徳島県美波町

にぎやかそ（にぎやかな過疎）を創る
―サテライトオフィス誘致を核としたまちづくり―

株式会社あわえ取締役執行役員、地方創生推進部部長、ローカル・インテグレーター
● 吉田　和史

地域活性化センターは、地方創生の担い手となる人材の養成を目的に「地方創生実践塾」を実施している。2023年1月20日（金）、21日（土）、22日（日）に徳島県美波町で開催された実践塾について、主任講師の吉田和史氏にご報告いただいた。（企画・人材育成グループ）

徳島県の南東部に位置する美波町は、少子高齢化や人口流出による深刻な過疎化への対策として、平成27年に地方創生総合戦略「美波ふるさと創造戦略～共創によるまちづくり～」を定め、地域振興策を推進してきた。

ベンチャー企業等のサテライトオフィス誘致や、児童生徒の多地域就学を可能とする日本初のデュアルスクール制度の実現など、先駆的な取り組みを進め、県内最多のサテライトオフィス企業が進出し若者移住者も増加。古民家を活用した飲食店などのサービス業が次々と開業するなど、町には新たなにぎわいが生まれつつある。

実践塾では、「にぎやかそ」（にぎやかな過疎）という考え方を、美波町の取り組みから学び、「にぎやかそ」の構成要素である進出企業や団体、地域住民との交流を通して体感してもらうことを目的とした。

「にぎやかそ」って何？

【1日目】美波町長の影治信良氏と地域活性化センターの椎川理事長の挨拶に続き、サテライトオフィス誘致を核とした人口減少社会のまちづくりについて、株式会社あわえ代表取締役の吉田基晴氏が講義を行った。吉田氏は、全国の地方では過疎化によりチャレンジの総量も減っていると指摘。チャレンジが減ると地域が衰退していくため、地域内外からチャレンジャーを集める必要があり、サテライトオフィス誘致を美波町と連携し行ってきたと説明した。その結果、さまざまな事業が生まれ、「にぎやかそ」が生まれたと語った。また、チャレンジの源泉は山積している地域課題であると述べた。

「にぎやかそ」実現と進出企業の取り組み

【2日目】最初に美波町長の影治信良氏が講義し、同町のこれまでのさまざまな取り組みを紹介しながら、「にぎやかそ」に込めた思いなどを語った。続いて、美波町産業振興課課長補佐の鍛治淳也氏が、町としてどのようにサテライトオフィス誘致に取り組んできたのかを話した。地方で得られる暮らしや生き方というものをコンセプトとして2013年から誘致を始めたが、それだけでは企業にとっての進出材料としては弱かったと振り返り、その後の関係者を巻き込んだ展開を紹介した。

次に、進出企業がインタビューを受ける形で、それぞれの立場から取り組みを紹介した。

1日目にも登壇した吉田基晴氏が、この日はサイファー・テック株式会社、株式会社四国の右下木の会社の代表取締役として、なぜ美波町を選んだのか、また進出するだけではなく、地域に住み、苦楽を味わい続けることで見えてきた課題やビジネスチャンスに取り組む姿勢、考え方を語った。

ハード、ソフトの両方を扱う東京のIT企業、株式会社イーツリーズ・ジャパンの代表取締役である船田悟史氏が取り組みを語った。同社は、美波町に進出してイベント省力化システム「みなみえる」を開発し、地域イベントの省力化に大きく寄与。美波町だけではなく他地域にも貢献している。

株式会社まめぞうデザイン代表取締役のドウゾノセイヤ氏は元々大阪で個人事業主として、WEBデザインを行っていた。その後、競合社がなく唯一無二となれる美波町でまめぞうデザインを起業し、WEBデザインだけにとどまらず、商店街の活性化に寄与する飲食店、ゲストハウ



主任講師による講義

ス、アパレルなどの事業展開を行っている。

一般社団法人ミライの学校代表理事の高畑拓弥氏は、「デュアルスクール」について説明した。デュアルスクールとは、住民票を異動せず、都市部と地方など2拠点を行き来しながら双方の学校に通うことができ、どちらの良さも体験できる「新しい学校のかたち」である。この事業により移住候補者が長期間の移住体験をできるようになり、関係人口の増加に大きく寄与したという。

続いて、フィールドワーク「サテライトオフィス誘致と関連する商店街活性化事例探索」を実施。参加者は、商店街がどのように活性化したのかについて、まちをめぐりながら学んだ。さらに、サテライトオフィス誘致研修として、サテライトフィス誘致のノウハウや基礎知識を全国の事例などから学ぶ基礎研修を行った。



フィールドワークの様子

自分のまちで実施するために

【3日目】最終日は、にぎやかそワークショップ～自分たちのまちに誘致すべき企業を洗い出してみよう～を行った。

このワークショップでは、実際に「にぎやかそ」となった自分たちのまちをイメージし、それを実現するために誘致すべき企業を洗い出した。ハードだけを準備すればサテライトオフィスが誘致できると思っていた受講前と比べ、自分たちのまちの課題であるビジネスチャンスをもとにどんな企業が誘致できるかのターゲティングまでを行うことができた。



ワークショップで発表する参加者

今回の実践塾では、さまざまな地域の熱い方々が真摯にまちのことを考えている姿を目にし、主任講師をはじめ、講義の講師やインタビューを受けてくれた関係者の心も熱くなった。そんな体験をさせてくれた地域活性化センターの皆さんや受講者の方々に厚く感謝を申し上げる。受講者のまちの「にぎやかそ」の一助になれば幸いだ。



全体写真

地方創生実践塾（徳島県美波町）の概要

テーマ：にぎやかそ（にぎやかな過疎）を創る

1日目　1月20日（金）
講義①「サテライトオフィス誘致を核とした人口減少社会のまちづくり」
講師：株式会社あわえ　代表取締役　吉田 基晴 氏

2日目　1月21日（土）
講義②「美波町の概要、取り組み」
講師：美波町長　影治 信良 氏
講義③「美波町サテライトオフィス誘致の軌跡について」
講師：美波町産業振興課課長補佐　鍛治 淳也 氏
進出企業インタビュー①
講師：株式会社あわえ、サイファー・テック株式会社、
株式会社四国の右下木の会社代表取締役　吉田 基晴 氏
進出企業インタビュー②
講師：株式会社イーツリーズ・ジャパン代表取締役　船田 悟史 氏
進出企業インタビュー③
講師：株式会社まめぞうデザイン 代表取締役　ドウゾノ セイヤ 氏
進出企業インタビュー④
講師：一般社団法人ミライの学校　代表理事　高畑 拓弥 氏
フィールドワーク「サテライトオフィス誘致と関連する商店街活性化事例探索」
講義④「サテライトオフィス誘致研修」
主任講師：株式会社あわえ取締役　吉田 和史 氏

3日目　1月22日（日）
個人ワーク「自分達の地域に誘致したいサテライトオフィスについて」
主任講師：吉田 和史 氏



地域の中で人を育てる体制づくり

◉ 横山 暁一 氏プロフィール

静岡県沼津市出身。名古屋大学卒業後、インテリジェンス（現:パーソルキャリア）に入社。2019年からはパーソルキャリアと兼業する形で長野県塩尻市の地域おこし協力隊に着任し、塩尻商工会議所の地域人材コーディネーターに着任。2020年には並行して「塩尻の人事部」をテーマとしたNPO法人MEGURUを設立し、産官学金連携による地域企業の人的資本経営推進や個人のキャリア自律支援に邁進中。

「地域づくりは人づくり」では、編集室が人材育成をテーマに全国のさまざまな方を取材し、その熱い思いや取り組みを紹介しています。今回は長野県塩尻市で「塩尻の人事部」をテーマとしたNPO法人MEGURUを設立し、産官学金連携による地域企業の人事支援や個人のキャリア支援事業を展開している横山暁一さんにお話を伺いました。

塩尻商工会議所の仕事で地域を知る

―地域に目を向けるようになったきっかけを教えてください。

人材系の会社であるパーソルキャリア株式会社に就職し、会社の研修の一環として鳥取県智頭町で半年間、地域活性化に関わる取り組みに参加したのがきっかけです。塩尻市へは、妻の出身が長野県だったことと、地域おこし協力隊を募集しているという記事の中に、コワーキングでいろんな人が集い、塩尻市の地域課題をビジネスの力で解決する起業家を官民連携で育成していくという記載があり、面白そうだなと思ってエントリーしました。ただ、その募集には採用されず、塩尻商工会議所の協力隊員として、2019年からパーソルキャリアと兼業する形で活動することになりました。

私の役割は市内の人材に関する課題解決で、主に商工会議所のHPの活用や地域事業者の経営支援でした。知り合いもいない塩尻で自分に何ができるか最初は不安でしたが、当時上司だった海津健司事務局長に、地域の経営者と直接顔を合わせる機会を何度も作ってもらったことで、多くの企業や経営者の皆さんとつながりを持つことができ、地域の状況も詳しく知ることができました。

―NPO法人MEGURU設立のきっかけは。

協力隊として人材支援に取り組む中で、中小企業の多い塩尻市では、人材に対する課題がありながらも専門的な人員を割けず、結果として経営者の右腕となるような人材がなかなか育っていない現状を知りました。また、市内には良い企業や経営者が存在するのに、情報発信が乏しく、若者が地元に就職することを選択肢に入れていないことに気付きました。このままでは人手不足から、地域の魅力の低下、投資の減少、さらに人材が流出……という負のスパイラルが起こると考え、企業に対しては長期的に伴走する人事支援を、個人には生涯を通じたキャリア支援をいろんな団体と連携しながら作っていく、そういった環境作りをするため「地域の人事部」としてMEGURUを設立しました。

中小企業の合同研修や中高校生の探究学習支援も

―MEGURUの事業内容について。

三つの事業領域があり一つ目は法人と個人をマッチングする事業、二つ目が法人向けの人事パートナー事業、三つ目が個人向けのキャリア支援事業です。一つ目では、例えば「ながの人事室」という求人メディアを運営しています。これは、仕事を条件で決めてもらうのではなく、この企業、

この経営者と働きたいという共感をもとにマッチングするようなメディアです。二つ目は中小企業向けの合同研修などを実施しています。研修の実施は企業の人材育成の手助けだけではなく、社員が同世代の人と関わる機会の提供、会社を超えたネットワーク作り、学び合いの創出につなげています。また、経営者同士や人事同士のネットワークやコミュニティを作るイベントを開催し、横の情報共有ができるように支援しています。

三つ目は社会人の多様なキャリアと出会う大学生向けのイベント「いきはたパーク」や、中学生、高校生向けの探求学習の時間の支援などです。課題発見と行動から、地域に対する理解や愛着を持ってもらい、自分のキャリアプランに塩尻市を選んでもらえるような取り組みとなるように配慮しています。

地域課題解決のためのオンラインコミュニティ

―塩尻ＣｘＯ Ｌａｂとはどんな取り組みですか。

地域課題の解決や魅力の再発見に対して、地域で活動している人たちと関係人口となる人たちが協働することによって、塩尻への愛着の醸成や、市内で取り組んでみたいと思える人を増やすためのオンラインコミュニティです。今年度は新しいスポーツイベント企画や日本ワインの販売促進、保育に関することなど五つのテーマを設定し、全体で約30人が参加しています。ラボの参加メンバーはテーマごとに地域で活動する人（地域プレイヤー）と共同で課題解決に向けて取り組みます。特徴は、現状分析や目標設定といった初期段階から地域プレイヤーとラボのメンバーがかかわるという点です。最初から手探りで始めることで、地域の現状や課題が自分事としてとらえられるようになるほか、出来上がったものだけではわからない面白さをラボの人たちに感じてもらう狙いがあります。このラボは6カ月間の取り組みですが、ラボ参加者が地域プレイヤーとして再びかかわるようになるなど、一緒にこの地域を面白がって活動する人が増え、人づくりや関係人口の創出につながっています。

―学校教育を支援する取り組みについて教えてください。

地域に関わる機会を中学から大学まで継続して提供し、若者たちの地域愛着やキャリア形成を促進しています。中学生には地元の若手社会人をインタビューし、職業選択の視野を広げ、将来の不安を払拭し生きがいを見つけるプログラム、高校生には塩尻をテーマにして、地域の課題発見と解決策を考案すると共に、塩尻の魅力ある部分を調査し、シビックプライドの醸成や、未来への期待感を高める機会を提供する「シオジリ学」、大学生には地域で働く社会人たちとのトークセッションと座談会を通じて、地元での働き方や生き方の多様性を知ってもらい、地元での就職や参画を促進する「いきはたパーク」。これらを通じて、地域課題発見や地域での働き方を学び、社会人との交流も増やしています。そして、若者たちが自分自身の可能性を広げ、地域社会に参画する意識を高めています。

―横山様にとっての地域づくりとは。

地域で「住みたい」「暮らしたい」「働きたい」という人たちをいかに見いだしていけるかですね。そのためには、この地域で新しいことを始めたいと考える人がいたら、職場だけではなく地域の中で育てる体制づくりが大事だと思います。また、地域にいることを楽しみ、まちのことを自分ごととして考えてくれる人をどれだけ増やしていけるかが大きいと思います。その中で人とのつながりや新しい事業が創出され、にぎわいや魅力が生まれること。この町で暮らす理由が見つかり、主体的に自分の人生を歩む人を増やし、まちに関わる人を増やしていくことが私にとっての地域づくりです。



塩尻商工会議所の海津さん（左）と横山さん



大学生を対象とした「いきはたパーク」



塩尻の人事部構想

地域活性化センター副参事
●平林 拓海（長野県大町市より派遣）

首長の思い
column



「暮らしたいまち日本一」を目指して

～産学官連携による小さなまちの大きな挑戦～

熊本県荒尾市長　浅田　敏彦

荒尾市は、熊本・福岡両都市圏の中間にあり、有明海に面する人口5万人の県境のまちです。明治以降、隣接する福岡県大牟田市とともに、三池炭鉱のまちとして発展しましたが、平成9年に閉山。現在は、都市機能と自然が調和した住宅都市に変貌しました。また、アトラクション数日本一のグリーンランド遊園地、世界文化遺産の「万田坑」、ラムサール条約登録湿地の「荒尾干潟」など、観光資源にも恵まれ、年間約200万人が訪れるまちでもあります。

本市では、少子高齢化や若者の転出による人口の減少、地域経済の低迷等が続いており、「荒尾をもっと良くしたい」との想いで、平成29年に市長に就任しました。

まず重視したのは、教育と医療の充実です。教育面では、全教室へのエアコン設置、授業改善、どこでもつながるタブレットによるICT教育、小学校給食費の無償化、校内フリースクールの全中学校設置などに取り組み、教育費予算を倍増しました。医療では、老朽化した市民病院を建て替え、一般病床を全室個室化し、ヘリポートのある災害拠点病院として、本年10月開院予定です。

2期目の目標には「暮らしたいまち日本一」を掲げました。基本戦略は、次の3点です。

1点目は、二つの中心拠点に都市機能を集積し、周辺地区と公共交通でつなぐ「コンパクト+ネットワークのまちづくり」です。拠点の一つ、緑ケ丘地区にある商業施設（第三セクター）内に、モール・書店・市が連携し、1000坪の市立図書館を整備。本格的なデジタルライブラリーを備え、カフェや書店も併設した質の高い図書館を短期間、低コストで実現しました。幅広い世代で利用者が増加し、拠点機能の強化につながりました。

もう一つの中心拠点のJR荒尾駅周辺地区では、荒尾競馬場跡地35ヘクタールで、土地区画整理事業に取り組んでいます。「ウェルネス」をコンセプトに、PFIによる道の駅の整備をはじめ、温浴や宿泊施設、集合住宅などを誘致し、将来は自動運転バスの運行も計画しています。エリア内では、「有明海沿岸道路」の工事も始まり、荒尾駅のリニューアルも予定しています。

2点目は、人口が減少しても便利で快適に暮らせる「スマートシティ」の推進です。令和元年に、国土交通省の重点事業化促進プロジェクトに選定され、大学や企業と推進協議会を設立し、令和2年には、九州で唯一先行モデルプロジェクトに採択されました。ヘルスケア、モビリティ、見守りなど、地域課題ごとに実証実験を重ねており、公共交通では、路線バスを補完する、AIを活用した予約型相乗りタクシーを市内全域で運行し、大変好評です（国内初）。また、鏡の前に立つだけで自分の健康状態がわかる「ウェルビーイング・ミラー」、顔認証技術と位置情報を活用した児童の見守りなどで実装の準備を進めています。併せて、全世代型デジタル社会を実現するため、高齢者へのスマホ教室も積極的に実施しています。

3点目は、「石炭のまち」から「ゼロカーボンシティ」への転換です。本市は、脱炭素に積極的に取り組んでおり、学校照明のLED化などの省エネ、新病院のZEB（ネットゼロエネルギービル）認証のほか、エネルギーを中心としたまちづくり連携協定を民間2社と締結し、市内に設立された地域電力会社を通じたエネルギーの地産地消を進めています。公共施設の屋上を活用したソーラーと蓄電池の設置、さらには、Jクレジットも活用して、令和3年度から市の使用電力を全て再エネで賄う「自治体版RE100」を達成しています。令和3年には「ゼロカーボンシティ」を宣言し、国の補助を活用して一般家庭や事業所にソーラーと蓄電池の設置費を補助するなど、地域を挙げてCO_2の実質ゼロを目指しています。

こうした基本戦略によって、荒尾らしい付加価値を高め、地域経済をけん引するとともに、その果実によって、教育・子育て・医療・福祉・防災・防犯など、暮らしの足元を支える方針であります。今後も荒尾市は「共感」と「信頼」を大切にしながら、産学官の連携を積極的に進め、市民が笑顔で幸せを実感できる「暮らしたいまち日本一」を目指して、チャレンジを続けてまいります。

手前みそですが…

和歌山県

太地町 291

くじらの町　太地町



■クジラのモニュメント
太地町の玄関口では、実物大のザトウクジラの親子が訪れる人を出迎えます

太地町は紀伊半島の吉野熊野国立公園の中央に位置し、雄大な熊野灘に臨む広大な地域は四季折々の魅力にあふれています。風光明媚な大自然は、変化に富んだ典型的なリアス式海岸に彩られ、時には豪壮であり、時には優美であります。くじら浜公園内には、世界有数の資料を保有する「太地町立くじらの博物館」があります。館内では、クジラやイルカのショーをはじめ、鯨に関するレクチャー、クジラやイルカとのふれあい体験などが行われています。ぜひ一度ご来館下さい。

また、毎年11月の第1日曜日には「太地漁港ふれあい広場」の一角に特設舞台を組んで「太地浦くじら祭」が行われます。鯨踊り、鯨太鼓、民謡踊りなどの郷土芸能が披露されます。太地町の玄関口では、2頭のザトウクジラのモニュメントが迎えてくれます。



■燈明崎
古式捕鯨の指令所「山見台」があった燈明崎は、熊野灘を一望できる断崖の場所にあります



■餌あげ体験
くじらの博物館内では、色々な体験ができます。中でも餌あげ体験は、自然プール内に設置した生け簀で飼育されている、クジラやイルカに餌をあげることができます。料金は、300円となっております



■鯨入りソーセージ
高タンパク・低脂肪・低カロリーで、運動能力を高め、健康に良く、美容にもよいという優れた食品である「鯨肉」を15%使用しています。そのままでもまた炒めても、美味しく召し上がっていただけます



■道の駅　たいじ
2017年8月にオープンした「道の駅たいじ」は地元で採れた海産物や農産物を販売しています。フードコートでは鯨スタミナ丼や鯨カツバーガーなど鯨料理も楽しめます



■くじら浜海水浴場
日本で唯一のクジラと泳げる海水浴場です。浴場内に生け簀を設置して、海水浴をしながら、近くでクジラが泳ぐのを見ることができます。1日2回生け簀からクジラが海水浴場内に放されます。太地ならではの海水浴場です

地域づくり５月号

2023年5月1日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階 電話03-5202-6131(代)
https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

法律で許可された場合以外に本誌からの無断転載を禁止します
落丁・乱丁はお取り替えします。編集室（03-5202-6139）E-mail：hensyuu6139@jcrd.jp まで、ご連絡下さい。

地域活性化センターからのメールマガジン登録はこちら

地域づくり5月号（通巻407号）令和5年5月1日 一般財団法人 地域活性化センター発行

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。



移動採血車

全国各地で運行している
献血バスを寄贈



ベンチ

全国の公園緑地等に
ベンチを設置



フラワープランター

観光地の環境美化活動の
推進を目的として寄贈



宝くじ桜

日本全国に
さくら若木を寄贈



車いす

博物館利用者のために
車いす等を寄贈



一輪車

体力つくり実践校等に
一輪車を寄贈



バス停留所施設

バス停上屋と
風防施設を設置



すこやか広場

こどもの国（神奈川県）に
健康器具や遊具を設置



検診車

胃部・胸部X線撮影車
として寄贈

**宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、
教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。**

あなたに夢を。街に元気を。
クーちゃん 宝くじ

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/

2023
5
ISSN 1340-8917



第27回 ふるさとイベント大賞

地域づくり 特集編

目 次　表紙裏　第27回ふるさとイベント大賞表彰式・2023地方創生フォーラム in 東京を開催

大賞（内閣総理大臣賞）　市場街（高岡クラフト市場街）【富山県高岡市】… 2

最優秀賞（総務大臣表彰）　房総里山芸術祭　いちはらアート×ミックス2020＋【千葉県市原市】… 4

優秀賞
わらアートまつり【新潟市（西蒲区）】… 6
小倉城竹あかり【福岡県北九州市】… 8
吉田皿屋ひかりぼし【佐賀県嬉野市】… 10

ふるさとキラリ賞
行田花手水week及び希望の光【埼玉県行田市】… 12
てぬぐいひらひら【鳥取県境港市】… 14

選考委員特別賞　書道パフォーマンス甲子園（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）【愛媛県四国中央市】… 16

次点〈14団体〉
復興への道灯り 多賀城光のインスタレーション2022【宮城県多賀城市】…… 18
酒井家庄内入部400年記念宝生流能楽公演「能楽体験・鑑賞能」【山形県鶴岡市】…… 19
ただみスノースポーツフェスティバル2022【福島県只見町】…… 20
芝桜まつり・世界のあじさいまつり【福島県平田村】…… 21
小宅古墳群菜の花・桜まつり【栃木県益子町】…… 22
ゲゲゲ忌2021【東京都調布市】…… 23
立山Craft2022秋【富山県立山町】…… 24
オバラあかりの華 軽トラあんどんパレード【愛知県豊田市小原地区】… 25
狭山池まつり2022【大阪府大阪狭山市】…… 26
第44回馬関まつり【山口県下関市】…… 27
うだつをいける【徳島県美馬市】…… 28
まつしげ人形劇フェスティバル2021【徳島県松茂町】…… 29
凧博物館で遊び、凧文化を広げてみようプロジェクト【愛媛県内子町】… 30
オムライス街道キックオフイベント【高知県日高村】…… 31

都道府県漫遊（徳島県）…32　　グラビア　**手前みそですが**…（和歌山県太地町）

2023年5月1日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター　©2019 jcrd.jp
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階 電話03-5202-6131（代）https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

第27回ふるさとイベント大賞表彰式・2023地方創生フォーラム in 東京を開催

地域活性化センターでは、2023年2月28日（火）に「第27回ふるさとイベント大賞表彰式」と「2023地方創生フォーラムin東京」を開催しました。当日は表彰式の様子や講師の講演などをユーチューブで同時配信し、多くの方にご視聴いただきました。

■プログラム

13：00～　第27回ふるさとイベント大賞表彰式
14：10～　2023地方創生フォーラムin東京
「地域資源を活用したローカル・スタートアップ」
【基調講演】藤原 岳史 氏（株式会社NOTE 代表取締役）
【事例発表】川本 恭治 氏（城南信用金庫理事長）
鍋屋 安則 氏（和歌山県田辺市企画部 たなべ営業室）
【施策説明】関口 龍海 氏（総務省 地域力創造グループ 地域政策課 理事官）



ふるさとイベント大賞表彰式出席者による記念撮影



地方創生フォーラムの様子



受賞団体挨拶　大賞「市場街」（高岡クラフト市場街）実行委員会

第27回ふるさとイベント大賞の概要

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントのさらなる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

今回で27回目を迎え、第26回までに、194の個性豊かなイベントを表彰しています。

今後も、ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流につながる地域の活性化を目指しています。

●応募対象イベント

2021年7月1日から2022年6月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベント。

※現在の状況を考慮し、オンライン開催も対象。また、規模の縮小や内容の変更などがある場合でも、イベントを継続することで、そのイベントが本来持つ意味を伝えようと創意工夫を凝らしているものも含む。

以下のいずれかに該当するイベントは対象外。

①直近の5回（第22回～第26回）に大賞、最優秀賞等各賞を受賞したイベント

②継続性がなく1回の開催のみで終了するイベント

●選考過程

イベント主催団体から、市区町村等を通じ、都道府県へ応募書類を提出していただきました。今回の応募総数は66件でした。

応募されたイベントについては、イベントプロデューサーや学識経験者等により構成される「第27回ふるさとイベント大賞選考委員会」において厳正な審査を行い、受賞イベントを決定しました。

なお、選考にあたり、右記の選考基準を基にイベント内容を総合的に判断しました。

●選考基準

	評価のポイント
企画	・地域資源を積極的に活用している。 （地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など） ・独創性に溢れ、新たな地域の魅力を創り出している。 ・多くの人をひきつける魅力がある。 ・魅力を増すための創意工夫が顕著である。
運営	・地域住民が積極的に参加している（参加することに誇りを持っている）。 ・地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。 ・継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。
効果	・地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。 （低予算でも波及効果が大きいなど） ・地域の知名度アップに貢献している。 ・地域住民の郷土意識の高揚につながっている。 ・伝統文化の継承や新しい文化の創造につながっている。

選考委員長の総評　北川 フラム氏（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役／アートディレクター）


【撮影：山本マオ】

今回のふるさとイベント大賞では、いつにも増して地域の特徴を生かしたプロジェクトに脚光があてられました。400年に及ぶ銅器、漆器制作の富山県高岡市では伝統工芸を含むクラフトの職人たちに、千葉県市原市では過疎化する里山地域の廃校、鉄道の魅力に、稲作の新潟市の西蒲区ではその稲藁に、北九州市の小倉では放置される竹林に、佐賀県は嬉野市の窯業地吉田では廃棄される窯道具にというふうにです。特産の影の部分に着眼することにより全体を賞揚するという新鮮な試みが登場してきたことは嬉しいことです。

埼玉県行田市の「花手水」や鳥取県境港市の「てぬぐいひらひら」も地域の特色を小粋に鮮やかに見せてくれるイベントですし、愛媛県は四国中央市三島高校の突出した部活動から生まれた「書道パフォーマンス甲子園」が地域の資源である紙をひっぱりだすという効果も生んでいます。一地域の特性を生かした生業と結びついてそれぞれの場所での意欲的な活動が成果を生んでいるという例が良くわかった今回の審査でした。

問い合わせ先

一般財団法人 地域活性化センター
地域創生部地域創生課

〒103-0027 東京都中央区 日本橋 2-3-4
日本橋プラザビル13階

TEL 03-5202-6136　FAX 03-5202-0755
E-mail：event@jcrd.jp　HP：https://www.jcrd.jp/



大賞　内閣総理大臣賞

市場街（高岡クラフト市場街）

2022年

9月23日（金）～25日（日）

【開催場所】高岡市中心市街地



評価のポイント

●クラフトのイベントを通して、鋳物など高岡ならではの伝統工芸や地場産業の振興につながる可能性がある。
●年々参加団体や業種が増え、高岡市全体の取り組みに成長している。富山大学と連携したきめ細かい対応が、訪問者の満足度につながっており、同種のイベントを開催している他地域のモデル的な取り組みとなっている。
●オンライン配信や番組制作は職人を前面に出す工夫をし十分インパクトがあり、訪問客やリピーターの増につながって、経済波及効果も高いものと考えられる。このイベントをきっかけに、移住者や創業者があるほか、大学生が学校の志望動機とすることもあるとのことであり、ますますの発展を期待できる。

次回開催日程

■開 催 日：2023年9月下旬（予定）
■開催場所：高岡中心市街地ほか
■問い合わせ先
・団 体 名　高岡クラフト市場街実行委員会
・メ ー ル　ichibamachi@gmail.com
・U R L　https://ichibamachi.jp、https://book.ichibamachi.jp

大賞

第27回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

市場街（高岡クラフト市場街）

「市場街（高岡クラフト市場街）」は、2012年に高岡中心市街地において「クラフト」をテーマとするイベントを開催したことにより始まりました。その後、毎年秋頃の実施を続け、2022年で11年目を迎えました。2012年の開催当初は10会場のみの取り組みでしたが、2016年から「工芸都市高岡の秋」としての統合イベントに成長することで会場数も増え、高岡の秋の風物詩ともなりました。2020年においてはコロナ禍による影響を受けるも「市場街TV」というオンラインプログラムを立ち上げることで活動の幅をさらに拡げました。

11年目を迎えた2022年は90を超える店舗やワークショップなど、コンテンツの数では過去最大の規模となりました。高岡の街を一望できる高岡中央駐車場の最上階を活用した「高岡クラフトマルシェ」や、山町筋観光駐車場で開催した「山町ワークショップストリート」などの新企画を通して、工芸やクラフト初心者の方でもクラフトやアーティスト作品を身近に感じていただけるようなイベントを実施し好評を得ました。また「工芸都市高岡2022クラフト展」「ミラレ金屋町」の同時期開催が再開し、3年ぶりに3大イベントが集う「工芸都市高岡の秋」となりました。それぞれのイベントにおいて、コロナ禍における感染対策を行いながら、オンサイトでリアルに楽しんでいただき、来場者同士や関係者とのリアルなコミュニケーションが行える場を提供することで、高岡の街ににぎわいが戻りました。また、2022年のグッドデザイン賞も受賞しました。

11年前の小さな取り組みが、今や高岡を代表する大きなイベントとなりました。毎年、首都圏から本イベントのために高岡を訪れていただくリピーターの方々も存在します。また、本イベントをきっかけとして首都圏から高岡に移住された方々や、開催エリア内に店舗を開業された方々も存在します。継続によって、数字だけではない、まちの活力を大きく推進する効果が出ているものと考えております。

主催者メッセージ



市場街は、開町400年を越える工芸都市、富山県高岡市において2012年にスタート。“ものづくり”を切り口に、クラフト、工芸、食、歴史と文化、音楽、そして何よりステキな人たちに出会える、来ればきっと高岡を好きになるまちの魅力全開のイベントです。今年の秋、高岡でお待ちしています！　Youtubeチャンネル「市場街TV」もぜひご覧ください。

高岡クラフト市場街
実行委員会委員長
國本 耕太郎さん







開催DATA

自治体名	富山県高岡市
自治体人口	165,933人 ※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	高岡クラフト市場街実行委員会
開催回数	11回（2012年度～2022年度）
開催日	2022年9月23日～25日（毎年秋頃）
開催場所	高岡中心市街地ほか
観客数	21,800人（「工芸都市高岡の秋」としては37,600人）









評価のポイント

●2000年代初頭から各地で開催されるようになった「里山型トリエンナーレ」の代表例として、アートによる地域資源の再発見や利活用を促進し、地域の活力創出に寄与することが期待される。
●町じゅうをアートで満たす大がかりなイベントは、アートの鑑賞だけでなく、町の魅力の再発見にもつながる。
●日本の美意識や郷愁の原点となる里山の再認識や若い人材を集めるためのアートを軸にした地域の活性化は、他のイベントと比べても大きな成果が期待できる。

次回開催日程

■開 催 日：未定
■開催場所：市原市
■問い合わせ先
・団 体 名　いちはらアート×ミックス実行委員会
・住　　所　〒290-8501 千葉県市原市国分寺台中央1-1-1
・電話番号　0436-23-9872　・URL　https://ichihara-artmix.jp/

最優秀賞

第27回
ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020＋

2003年をピークに市原市の人口が緩やかな減少傾向をたどる中、市は2014年春、小学校の統廃合が進むなどその傾向が顕著な南部地域の里山自然を中心に、地域の活性化に向けた「課題解決型芸術祭」として、13カ国66組のアーティストを招いた第１回「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス」を開催しました。これを皮切りとして、これまでに計３回の芸術祭を開催しています。

芸術祭実施の背景としては、里山の保全などを目的に自発的に活動する市民団体がいくつも存在し、市域を南北に縦断する小湊鉄道沿線を菜の花で満開にする「花プロジェクト」をはじめとした地域の活動や、豊かな景観を持つ高滝湖畔にある「市原湖畔美術館」のリニューアルオープン、小湊鉄道の飯給駅の公衆トイレのアート化など、アートを活用したまちづくり推進の機運の高まりがありました。

この芸術祭の開催により、日本国内にとどまらず海外からの誘客にも成功し、本市の魅力を多くの方々に知っていただくことができただけでなく、地域に住む人々の誇りや自信にもつながる取り組みとなっています。

また、アーティスト、地域、行政に加え、「菜の花プレーヤーズ」と呼ばれるサポーター（ボランティア団体）の活躍により、作品の完成、芸術祭の成功といったゴールを一丸となって目指すプロセスは、回を重ねるにつれ、新たな交流・ネットワークの構築や、来訪者をもてなすおもてなしの心の醸成に寄与しています。

来訪者の方々には、作品を巡りながら里山の風景を楽しみ、豊かな自然の中で暮らす多くの市民のおもてなしの心に触れていただくとともに、市原市ならではののんびりした時間の中で市原を感じ、心を癒していただきたいと考えています。

現在は、芸術祭のレガシーを活かした「アーティスト・イン・レジデンス」を牛久地区で実施するなど、アートをより身近に感じることができる施策も進めており、今後もアートを媒介としたまちづくりの取り組みを展開していきます。

主催者メッセージ



いちはらアート×ミックス実行委員会会長・市原市長

小出 譲治さん

市原市は地方都市が抱える人口減少や少子高齢化等の諸問題をアートの力で解決すべく2014年から芸術祭を開催しています。過去３回の芸術祭で培った経験を礎に「アートを日常に感じられる」まちづくりに取り組み、魅力･共感･愛着を創出し「アートのまち＝市原市」のブランドを確立することで、持続可能なまちづくりを目指しています。



開催DATA

自治体名	千葉県市原市
自治体人口	270,085人 ※2023年１月１日現在
主催団体	いちはらアート×ミックス実行委員会
開催回数	3回
開催日	2021年11月19日～ 12月26日（月・火休場＝11月23日〈火･祝〉を除く）
開催場所	千葉県市原市 小湊鉄道を軸とした周辺エリア
観客数	110,354人







評価のポイント

●日本の自給食文化として切っても切れない稲作の収穫後の景観としても魅力的な取り組み。武蔵野美術大学の学生との協働やそのデザインを実現するためのボランティア（地域住民や農業従事者など）の存在が作品の魅力やイベント拡大のエネルギーとなっている。
●武蔵美の学生有志と地域住民や教育機関の共同作業による今後の展開、発展に期待したい。
●とても独創的で迫力があり、わらを使うという点がとてもユニークである。

次回開催日程

■開 催 日：令和5年8月下旬～ 10月31日（予定）
■開催場所：上堰潟公園
■問い合わせ先
・団 体 名　新潟市西蒲区産業観光課
・住　　所　〒953-8666 新潟市西蒲区巻甲2690番地1
・電話番号　0256-72-8417

優秀賞

第27回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

わらアートまつり

新潟市西蒲区のシンボル角田山の麓に広がる風光明媚な上堰潟公園に、動物などをモチーフとした巨大なオブジェを展示する「わらアートまつり」は、米どころ西蒲区の黄金色の稲わらから誕生した、迫力あり、愛嬌ありの躍動感あふれる巨大アートのフェスティバルです。

わらアートは現在では日本各地、海外でも制作されていますが、その発祥は西蒲区で、以前より交流のあった東京都の武蔵野美術大学の教授や学生たちが、「コシヒカリの国で米を収穫した後のわらを活用して造形物を作りたい」と試行錯誤し誕生しました。

第13回となる令和３年度は、武蔵野美術大学の学生たちがアートのテーマやデザインを考案・制作、地元の学生や市民サポーターが現地でのアート制作を担当し、３体の作品を制作し、８月下旬から10月下旬まで約２カ月間展示しました。テーマは、その年の社会情勢などを表現したもので、この年は、厄よけやコロナ禍からの復活、希望を願い、「見た人に活力を与える縁起物」とし、「アマビエ」「鳳凰」「三角達磨」の３体を制作しました。

わらのほかにわら縄やムシロを用いて細部までこだわった作品はリアリティにあふれるものとなり、老若男女すべての人に感動を呼び起こし、親しまれています。

また、まつりの期間中には西蒲区を始めとした県内の農産物や郷土料理などのグルメを販売する「西蒲市場」が出店し、アートの鑑賞とともに西蒲区の味をのんびりと楽しんでもらっています。

主催者メッセージ



新潟市最大の農業地域で、コシヒカリを始めとした米どころ西蒲区ならではの、稲わらを活用した巨大アートの祭典。ただ大きいだけでなく、顔の表情や毛の流れの一本一本など、わらを用いて細部まで手を抜かずこだわって作り上げた、生き生きとして躍動感あふれる作品を、ぜひ現地でご覧いただきたいです。

新潟市西蒲区産業観光課
主査
毛嶋 直喜さん





開催DATA

自治体名	新潟市（西蒲区）
自治体人口	773,914人（市全体）、54,234人（区全体） ※令和４年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	新潟市
開催回数	13回（令和4年の開催で14回）
開催日	令和3年8月29日～ 10月31日
開催場所	上堰潟公園
観客数	51,112人







評価のポイント

●放置竹林対策とともに、伐採した竹を灯籠に加工して幻想的な竹灯籠の灯で集客を図る発想はすばらしく、3万個というスケールもみごと。
●日本各地に伝わる「竹」との共生の姿は、現在の生活スタイルからどんどん遠ざかり、その関係が希薄化しており、竹林の美しい景観、麗しい緑を持続可能にする「管理」も大きなテーマである。そういった点で、資源や文化を生かし継承することの大切さを伝えるイベントとなっている。

次回開催日程

■開 催 日：2023年11月2日～ 5日
■開催場所：小倉城・虎ノ門周辺
■問い合わせ先
・団 体 名　小倉城竹あかり実行委員会
・住　　所　〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町3丁目3-20
・電話番号　070-8376-7103　・URL　http://kokurajotakeakari.com/

優秀賞

第27回 ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

小倉城竹あかり

北九州市は、九州地方の玄関口として栄えた歴史を持ち、かつては四大工業地帯の一端を担ったが、1979年をピークに人口減少が続き、2020年における高齢化率も全国の政令指定都市の中で最も高く、人口減少と高齢化が問題になっている。北九州市における行政・経済・交通の中心である小倉エリアの求心力の保持と活性化は急務であり、にぎわいの創出は非常に大切なポイントである。そこで４年前（2019年６月）に私たちが考えたのが、北九州市の地域資源を大いに利用しながら、都市の魅力や活力創出やアイデンティティーを形成する試みである。その地域資源とは、福岡県唯一の天守閣「小倉城」と、全国に名高い「小倉合馬の竹」である。この二つを駆使し、北九州市民力で始められたのが「小倉城竹あかり」である。

「小倉城竹あかり」は、以下の三つのコンセプトに基づいて開催している。

「竹害を竹財へ SDGs 環境循環型社会の実現」

放置竹林の環境問題を市民に啓発する目的で、竹を伐採し竹灯籠（どうろう）に形を変え、小倉城に幻想的な景観を創る。多くの人に観ていただいた後は、その竹を土壌改良剤や肥料に再利用する。

「北九州市民のボランティア力」

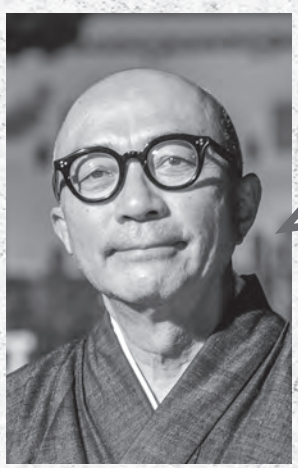
子どもたちや学生、中高年の皆さんにボランティアとして参加いただくことで、地域貢献や世代間交流の機会を提供する。竹灯籠を作ったりロウソクに灯したりすることで、参加する楽しみや愛郷心を育む。

「観光推進」

北九州市は、日本新三大夜景都市に選定された。国内外から１泊２日で北九州市にお越しいただける仕組みづくりを考える。中心市街地の回遊性・にぎわいを演出し、北九州市を代表する秋冬の風物詩とする。

昨年11月の第４回開催では、竹材約40トンを小倉南区の竹林から伐採。市民力で灯りの数 約30,000個を作成。それを小倉城に飾り、観覧者数46,000人、ボランティア数約３,500人。イベント終了後は、土壌改良剤や竹炭などとして周辺地域のイベントで再利用・再資源化され、数々の成果を残している。

主催者メッセージ



小倉城竹あかり実行委員会
委員長
辻 利之さん

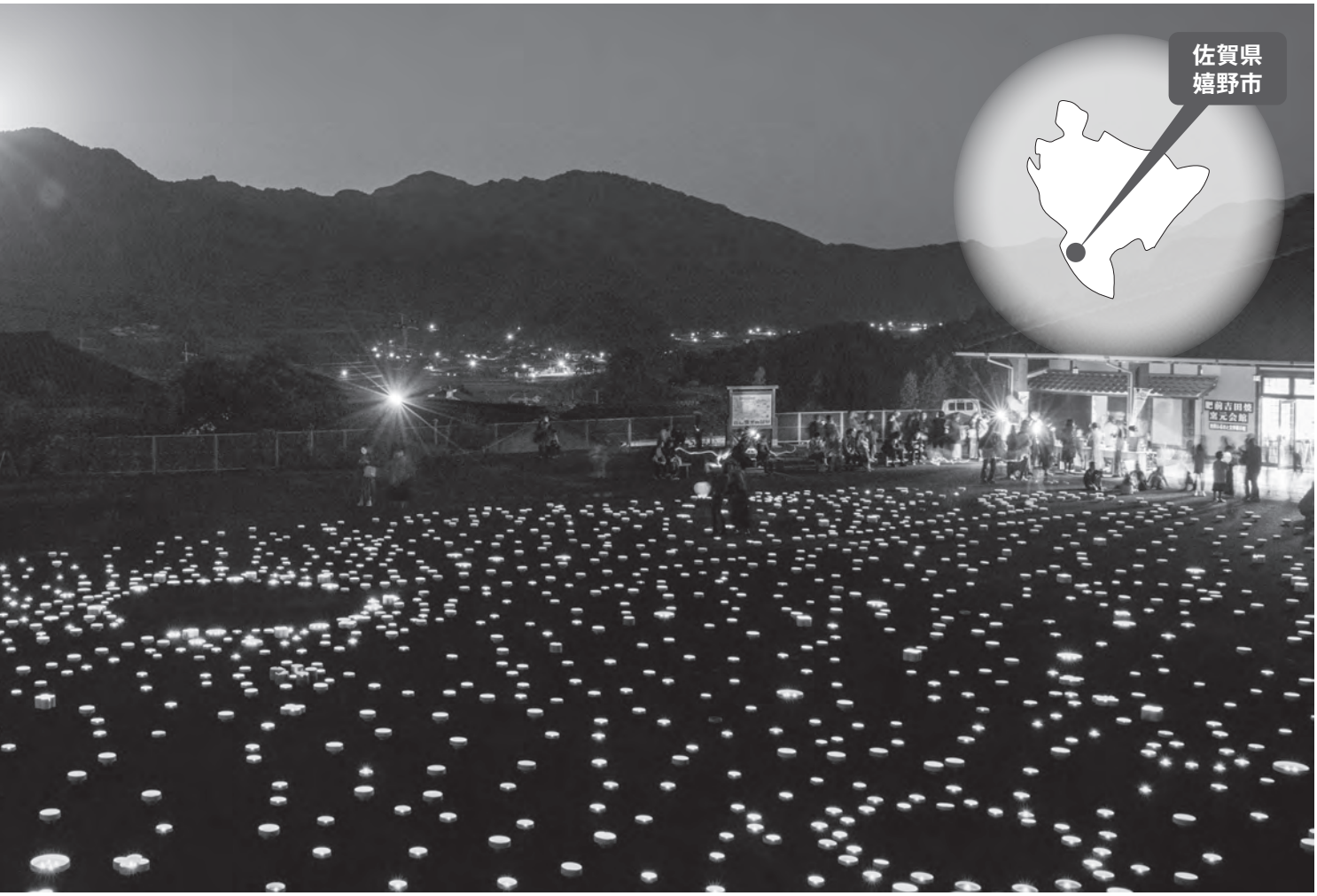
小倉城竹あかりの見所は、福岡県内唯一の天守閣である小倉城の下で6000個の竹の灯りが灯る「銀河」エリアと、市内の約8000人の小学生の未来への思いが描かれた8000個の「SDGs竹紙灯籠」エリアです。加えて高校生や商店主による「竹の商品作り」もあります。厄介者の竹を利用し観光推進に役立て、その後は小さいながらも商品作りで環境＆経済の循環を試みる、SDGs教育の一環です。





開催DATA

自治体名	福岡県北九州市
自治体人口	923,342人 ※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	小倉城竹あかり実行委員会
開催回数	4回
開催日	2022年11月2日～ 11月6日
開催場所	小倉城・虎ノ門周辺
観客数	46,000人







評価のポイント

●本来は廃棄物となる焼物のまち特有の「ボシ」を資源として活用するアイデア、さらにアートや食などと結びつけて広がりを持たせる発想がよい。
●「ボシ」と「暗さ」といういわば負の財産を掛け合わせて新たなイベントを立ち上げたところに好感を感じる。4000個という数も魅力。
●陶磁器生成の道具を使った素朴な表現や地域の人の連携で、新たなデザインによる商品開発やレストランとのコラボレーションなど、今後の拡張性や多彩な魅力づくりの可能性を秘めたイベントである。

次回開催日程

■開 催 日：2023年10月7日、8日予定
■開催場所：佐賀県嬉野市嬉野町吉田皿屋地区
■問い合わせ先
・団 体 名　吉田皿屋ひかりぼし実行委員会
・住　　所　〒843-0303 佐賀県嬉野市嬉野町吉田丁4525-1
・電話番号　0954-43-9322

優秀賞

第27回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

吉田皿屋ひかりぼし

「吉田皿屋ひかりぼし」は肥前吉田焼の産地である佐賀県嬉野市吉田地区の窯元に眠っている約4000個の「ボシ」を活用した灯りのアートイベントです。

佐賀県内の磁器産地としては有田や伊万里があり、嬉野市の近隣には波佐見焼、三川内焼もあります。肥前吉田焼も含めてこの五つの産地は同じ土で同じ焼き方をしているため、差別化が難しく、有田同様400年以上の歴史がありながら知名度が低いのが吉田焼です。吉田焼を全国区にしていくために、大きな産地ができないようなことを仕掛けていかなければいけないと課題を感じております。

そのような中、吉田地区の夜間の「暗さ」と産業廃棄物となる窯道具の「ボシ」に地域資源としての価値を見出し、佐賀県内のクリエイターの掘り起こしと沢山の子どもや若い人たちに何かを感じてもらうような、他産地で開催されている陶器まつりとは一線を画すアートイベントを企画、実施しています。これを定着させていくことにより、「肥前吉田焼の認知度向上」「ファンの獲得」「焼き物とアートを身近に」という目的へつなげ、地域の基幹産業である窯業振興、またそれによる地域全体の活性化に資するために活動しております。

「ボシ」とは効率良く窯詰めするための入れ物、つまり窯道具で、時代の流れと共に使われなくなったボシが吉田には約３万個あると言われています。「ひかりぼし」とはこのボシを再利用して淡い光を灯したもので、吉田地区の夜間の「暗さ」により際立つきれいな空の星と約4000個の「ひかりぼし」を楽しんでいただける仕掛けをし、地域全体が焼き物の産地ならではのインスタレーションとなっております。

イベントの実施にあたっては、地域の窯業関係者はもちろんのこと地域住民もスタッフとして巻き込んで運営を行い、「焼き物×アート」「焼き物×食」「焼き物×私」の三つのテーマを軸に、ひかりぼしの展示に加え、窯元の工場やお寺、倉庫を活用したアート展示、ミシュランシェフとのコラボレーションなどを仕掛け・工夫を凝らした多数のメニューを準備いたしました。来場者からは良好な反応を得ることができました。

主催者メッセージ

焼き物の産地ならではの窯道具を使った4000個の灯りと、きれいな夜空を楽しんでいただくイベントです。

窯元のナイト営業や工場見学もおこない、ミシュランシェフによる器付きの食事の提供や近隣のアーティストによる展示もおこなっております。



吉田皿屋ひかりぼし実行委員会
委員長
辻 諭さん





開催DATA

自治体名	佐賀県嬉野市
自治体人口	25,088人 ※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	吉田皿屋ひかりぼし実行委員会
開催回数	4回
開催日	2022年10月
開催場所	佐賀県嬉野市嬉野町吉田皿屋地区
観客数	1,500人









評価のポイント

●神社への参拝客への癒やしを目的に始められた花手水を、街全体に面的に広げ、各商店への誘客につなげていくアイデアが実を結び、経済波及効果や継続性も見込まれる。
●まちの散策マップの作成やライトアップでのインパクト。毎月定期的な開催により事業のPR効果も高まり、今後の発展が期待できる。
●行田八幡神社の花手水の歴史的な由緒を始まりとし、その可憐で繊細な美しい花のアレンジメントが現代の若い世代にも話題となっている。

次回開催日程

■開 催 日：R5. 5. 6、R5. 6. 3、R5. 9. 2、R5. 10. 7、R5. 11. 18、R5. 12. 2
■開催場所：忍城址など前年と同様
■問い合わせ先
・団 体 名　行田市
・住　　所　〒361-8601 埼玉県行田市本丸2番5号
・電話番号　048-556-1111（内線382）
・URL：https://www.city.gyoda.lg.jp

・団 体 名　一般社団法人行田おもてなし観光局
・住　　所　〒361-0077 埼玉県行田市忍2丁目1番8号
・電話番号　048-577-8442
・U R L　https://www.gyoda-kankoukyoukai.jp

ふるさとキラリ賞

第27回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

行田花手水week及び希望の光

「コロナ禍において、参拝していただいた方々に癒しを提供したい」との思いから、令和２年春に行田八幡神社で「行田花手水」は始まりました。その後、ＳＮＳなどで話題となり、地域への来訪者が増加していく状況を見て、市職員が「神社周辺の商店街にもにぎわいを」と周辺の店舗や民家に声かけをし、毎月２週間限定で軒先に花手水を飾る「行田花手水week」につなげていきました。その後も城下町や足袋生産地として栄えてきたことを体現する「忍城」や「足袋蔵」等歴史的建築物と花手水を組み合わせ、話題性を創出することで、徐々に地域ににぎわいが生まれてくると、店舗や民家の参加者もさらに増え、現在では、約100カ所の花手水が行田のまちを華やかに彩っています。

さらに、令和３年春からは「希望の光」と題し、毎月一夜限定で、ライトアップも始めました。「行田花手水week」に参加する商店や民家の花手水をライトアップする他、メイン会場となる「忍城」と「行田八幡神社」、「前玉神社」では、花手水をはじめ、城や社殿のライトアップ、和傘や竹灯籠など市職員や各施設スタッフ自らによる幻想的な演出で、来訪者に希望の光を灯しています。

「行田花手水week」及び「希望の光」ともに、開催期間になると商店主や住民自らが花手水を準備しており、地域が主体となった持続性のある取り組みとなっています。また、一般社団法人行田おもてなし観光局により、「行田花手水」をテーマとした着地型旅行商品の企画・造成や土産品の開発等も積極的に行っており、来訪者の増加を地域経済の活性化にもつなげています。引き続き、当イベントを官民連携により推進していくことで、本市の知名度向上や地域経済の活性化等を図るとともに、「忍城」や「足袋蔵」などの歴史的遺産を将来に継承していきます。

主催者メッセージ



行田市環境経済部
商工観光課長
森原 秀敏さん

「忍城」や「足袋蔵」など行田の歴史を体現する建造物が花手水で彩られている姿は、行田花手水ならではの見所です。また、中心市街地に位置する神社や商店、民家など約100箇所が趣向を凝らした花手水スポットとなっており、“花手水のまち行田”に彩りを添えています。忍城を中心に毎月一夜限定のライトアップも行っていますので、これを機にぜひ、行田まち歩きをお楽しみください。



開催DATA

自治体名	埼玉県行田市
自治体人口	78,741人 ※令和４年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	行田市、一般社団法人行田おもてなし観光局
開催回数	行田花手水week21回、希望の光11回
開催日	行田花手水weekは毎月1日から14日　※11月と1月は15日から末日、希望の光はR3. 7. 3、R3. 10. 2、R3. 11. 20、R3. 12. 4、R4. 1. 15、R4. 4. 2、R4. 5. 7、R4. 6. 4に開催
開催場所	忍城址、行田八幡神社、忍城址と行田八幡神社周辺エリアの商店・民家、前玉神社
観客数	21,492人（希望の光観客数） ※行田花手水weekの観客数は未把握









評価のポイント

●小規模なイベントながら、色とりどりのてぬぐいが街中で風になびく光景は、見てみたいと思わせる魅力がある。
●日本の色彩豊かで身近な生活用品である「手ぬぐい」が風や光の中で空に舞う造形は美しい。「伯州綿」を生かして食にもつなぐユニークな展開や人とモノをつなぐ「平和」や「人の和」を体現したとてもさわやかで魅力的なイベントである。
●ただ飾るのでなく「ひらひら」見せるというのがすてきである。

次回開催日程

■開 催 日：令和5年11月3日、4日（予定）
■開催場所：海とくらしの史料館（鳥取県境港市）
■問い合わせ先
・団 体 名　境港市役所農政課
・住　　所　〒684-8501 鳥取県境港市上道町3000
・電話番号　0859-47-1049

ふるさとキラリ賞

第27回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

てぬぐいひらひら

鳥取県境港市は、砂州で形成された弓ヶ浜半島の先端に位置し、最盛期は国内有数の綿の産地でした。鳥取県西部は、「伯耆の国＝伯州」と言われていたことから、境港市で栽培される綿は「伯州綿」と呼ばれるようになりました。

しかし、明治時代後半の関税撤廃を機に、外国から綿の輸入が増え、国内の綿の生産は減少し、伯州綿も衰退していきました。

そこで境港市は、平成20年度から失われかけた綿畑を再興し、江戸時代から守られてきた伝統的な地域資源を後世へ継承していく取り組みを始めました。

地域のボランティアの方々（伯州綿栽培サポーター）や地域おこし協力隊とともに、農薬や化学肥料を使わずに、手作業で綿づくりを行っています。

伯州綿にもっと多くの方々に親しんでいただき、もっと知ってもらうために、伯州綿を使った手ぬぐい（境港手拭）を製作して、当イベントが誕生しました。

「境港手拭」と全国から集めたご当地手ぬぐいを“ひらひら”させる当イベント「てぬぐいひらひら」は、平成29年度から毎年秋に開催しています。

令和３年度（第５回）は、全国各地から集めた134種類の手ぬぐいを、会場（海とくらしの資料館）の中庭に展示しました。会場内では、展示した手ぬぐい全種類を購入することができます。来場者のみが手ぬぐいの人気投票に参加することができ、投票者の中から抽選で手ぬぐいのプレゼントが当たります。

会場には、弓浜絣や伯州綿マスク等の伯州綿製品を製作する地元事業者や、パンやドーナツ等を販売する市内の福祉作業所が出店して、一緒にイベントを盛り上げました。

また、市内の小学生が伯州綿の茎を原料にして作った和紙の作品を展示したほか、畑までバスで移動しての伯州綿の収穫体験や、種を取り除く綿繰り体験を実施し、伯州綿をPRしました。

色とりどりの手ぬぐいが秋空を“ひらひら”する様子は、地元住民だけでなく、観光客も引きつけており、開催を楽しみにするリピーターも増えています。

主催者メッセージ



見どころは、130種類を超える手ぬぐいが“ひらひら”と秋空を彩る様子です。写真で見るよりも、会場で実際に見た方がきれいですので、ぜひ会場にお越しください。また、境港市で江戸時代から続いてきた伝統的な「伯州綿」はとっても触り心地が良い綿です。「伯州綿」を原料に使った手ぬぐいは、肌触りがとても良いですよ。

境港市役所産業部農政課
農業振興係長
森山 謙吾さん



開催DATA

自治体名	鳥取県境港市
自治体人口	32,977人 ※令和４年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	境港市、 一般財団法人境港市農業公社
開催回数	5回（応募後、6回目を開催）
開催日	令和3年10月30日、31日 （令和4年10月29日、30日）
開催場所	海とくらしの史料館
観客数	1,330人（R4：1,384人）







評価のポイント

●高校生による手作りの全国イベントに育て上げたパワーと発信力がすばらしい。実際の大会参加者は限定されるが、多くの企業が協賛し、報道関係の発信が盛んで、全国的な注目度は計り知れないレベルに達している。
●書道を「チームの演技」にしたことが新鮮で、高校生の心を捉えたものと思われる。全国の書道部に所属する高校生が目標とするイベントとしてさらに発展することが期待できる。
●書を支える素材としての紙の産地として名高い地域で、今後の地産地消を活性化するさらなる発展も期待できる。

次回開催日程

■開 催 日：令和5年7月23日（日）
■開催場所：伊予三島運動公園体育館（愛媛県四国中央市中之庄町1665-1）
■問い合わせ先
・団 体 名　書道パフォーマンス甲子園実行委員会事務局
・住　　所　〒799-0497 愛媛県四国中央市三島宮川4-6-55四国中央市教育委員会事務局
　　教育管理部　文化・スポーツ振興課　書道パフォーマンス甲子園振興室内
・電話番号　0896-28-6037　・URL　https://www.city.shikokuchuo.ehime.jp/site/shodo-performance/

選考委員特別賞

第27回
ふるさとイベント大賞

選考委員会委員長表彰

書道パフォーマンス甲子園（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）

書道パフォーマンス甲子園は、日本一の紙のまち四国中央市で毎年夏に開催される書道パフォーマンス日本一を決める高校生の大会です。12人以内でチームを編成し、６分間の演技の中で音楽に合わせて趣向を凝らしたパフォーマンスをしながら、縦４㍍×横６㍍の巨大な紙に作品を書き上げます。

書道パフォーマンスは、地元の愛媛県立三島高等学校書道部が、書道でまちを元気にしたいとの思いから、地域のイベントや文化祭などで音楽に合わせて大きな紙に歌詞などを揮毫する書のデモンストレーションを行っていたことがテレビで取り上げられて全国に広がりました。平成20年に商店街の一角でわずか３校の参加により第１回大会を開催し、現在では100校を超える応募がある大会となり、書道パフォーマンスを行う高校生にとって「夢の舞台」と呼ばれています。

令和３年に開催した第14回大会は、102校の中から予選審査を勝ち抜いた21校が当市で行われる本戦に出場しました。さらに、コロナで中止とした第13回大会に参加する予定だった当時の高校３年生が出場できる「19歳の部」を設け、５校が演技を披露しました。

大会は高校生による高校生のための大会づくりを目指し、高校生企画員と呼ばれる約70人のボランティアが半年以上の期間をかけて、キャッチコピーやポスターデザインの選定をはじめ、選手や観客へのおもてなし企画などを考えています。また、歓迎のあいさつや司会などの重要な役割を担うほか、当日はさらに50人ほどの高校生ボランティアが加わり、演技場の墨拭きや演技審判、選手誘導を行うなど、高校生の活躍によって大会は成り立っています。

令和５年７月23日には第16回大会の開催が予定されています。一度見ればパフォーマンスや作品の迫力、そして熱量に圧倒され、必ず魅了されるはずです。書道パフォーマンスの聖地四国中央市で、高校生の夢舞台をぜひご覧ください！

主催者メッセージ



大会の半分以上、私は涙する。高校生の思いや熱量がダイレクトに伝わり、感情が止まらないゆりかごのように揺さぶられる。書道パフォーマンス甲子園はそんな大会。

観に来てほしい！　いや観るべきだ！

皆さんの観覧をお待ちしています。

四国中央市教育委員会事務局教育管理部文化・スポーツ振興課書道パフォーマンス甲子園振興室長

守屋 伸康さん





開催DATA

自治体名	愛媛県四国中央市
自治体人口	83,426人 ※令和４年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	書道パフォーマンス甲子園実行委員会
開催回数	14回
開催日	令和3年7月25日（日）
開催場所	伊予三島運動公園体育館（愛媛県四国中央市中之庄町1665-1）
観客数	400人（保護者・学校関係者のみ） ※一般観覧は中止

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

復興への道灯り 多賀城 光のインスタレーション2022



6月に開催される、多賀城市の初夏の恒例行事である「多賀城跡あやめまつり」は、特別史跡多賀城跡の一角、約2万1000平方㍍のあやめ園内に800種300万本のあやめが咲きほこり、毎年約8万人もの来場者が訪れます。

「多賀城　光のインスタレーション」は昼のあやめの美しさとはまたひと味違う、夜のあやめを闇、光と共演させ、ほのかな光で幻想的かつ魅力的な空間を多くの市民とともに作り出すイベントとして実施しています。

多賀城市は、奈良時代（西暦724年）に創建され、陸奥国府が置かれるなど、東北の政治・文化の拠点として繁栄した「多賀城」が市名の由来となっています。

多賀城の創建を伝える国指定重要文化財「多賀城碑（壺碑）」は、数々の和歌に歌枕として読まれ、松尾芭蕉の俳諧理念「不易流行」の着想を得た場とも言われています。

このイベントでは「不易流行：いつまでも変わらないことを大切にしながらも、その時代に合った変化を重ねていくことを大切にする」ことをコンセプトとし、史跡（多賀城跡）を活用し、まちの表情を変えるべく新しいアートを闇と光とあやめで演出しました。

会場内は、総数5,500個ほどのLEDライトでライトアップし、あやめとほのかな光で幻想的な空間を演出するとともに、多賀城の歴史を知ってもらうため、多賀城の外郭線や多賀城碑も光で演出しました。また、場内を歩く観客に手持ち提灯を配布し周遊してもらうことで、ふわふわ浮き上がる動きのある光も市民参加型のアートインスタレーションとして表現することができました。

多賀城は2024年に、創建から1300年を迎えます。この本番の年に向け、歴史とアートを融合させたさまざまな文化プログラムを実施しています。この貴重な機会に、多賀城の悠久の歴史を感じにいらしてください。





多賀城 1300th
多賀城創建記念
TAGAJO 1300th Anniversary
724-2024



次回開催日程

■開 催 日：2023年6月21日～ 23日（予定）
■開催場所：多賀城跡あやめ園（宮城県多賀城市市川立石）
■問い合わせ先
・団体名：多賀城市企画経営部市民文化創造課
・住所：多賀城市中央二丁目1番1号
・電話番号：022-368-1141（内線251 ～ 253）
・MAIL：sozo@city.tagajo.miyagi.jp

開催DATA

自治体名	宮城県多賀城市
自治体人口	62,204人　※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	宮城県多賀城市
開催回数	3回
開催日	6月22日～ 24日
開催場所	多賀城跡あやめ園（宮城県多賀城市市川立石）
観客数	35,844人

次点

第27回 ふるさとイベント大賞

酒井家庄内入部400年記念 宝生流能楽公演「能楽体験・鑑賞能」

能楽は、南北朝時代頃に猿楽として発祥し、江戸時代、武家の式楽として武士が好んだ伝統文化となります。観世、宝生、金春、金剛、喜多と五流派あるうち、庄内藩主酒井家は「宝生流」にゆかりがあったため、鶴岡市は幼少から宝生流をたしなんだ人が現存しており、独自にお稽古を続けていました。平成24年からは宝生会（東京都）の能楽師も指導する庄内能楽館の能楽体験教室活動へと発展しました。

また、当地庄内を成す二市三町は松山能、黒川能、山戸能、黒森歌舞伎、山五十川歌舞伎と、農村部の民俗芸能としての能や歌舞伎が、数百年の時を超え、今も受け継がれる希少な地方です。どの地域も少子高齢化等から後継者不足が切実ですが、さまざまな工夫や取り組みが行われ、伝統文化を大切に守り伝えています。

令和４年、酒井家庄内入部400年という大きな節目の年に、地元小学校や地域伝統芸能の継承者である子どもたちに呼びかけて、人間国宝をはじめとする当代一流の能楽師を招いて、能・狂言・お囃子の体験ワークショップ、能楽鑑賞会を実施しました。

能舞台は、白足袋が必須であり、衣装も日本の大切な伝統文化として「こはぜ付きの足袋」にこだわり、参加者の小学生350人のサイズに合わせた足袋を準備しましたが、とても大変な作業でした。

日本を代表する能楽師の先生方により、礼に始まって礼に終わる能の所作、狂言の感情表現、能楽の面白さの直接指導を受けた子どもたちの生き生きとした姿は、地域で能楽にかかわる関係者に強い感動を与え、大きな励みになりました。事業後は、能楽教室に新たに通う児童生徒、親子の塾生が増加しております。

今後も、致道博物館、本間美術館を守る庄内藩酒井家・本間家や、庄内地方の村々に伝えられる民俗芸能や歌舞伎を伝承する人々と一緒に、地域固有の伝統文化や伝統芸能が、地域を超えて広く理解され、後世へ継承されていくよう活動を継続して参ります。











令和５年開催日程

■開 催 日：令和5年4月24日（月）、25日（火）
　　謡曲仕舞教室
■開催場所：公益財団法人庄内能楽館鶴岡教室
■問い合わせ先
・団体名：公益財団法人庄内能楽館鶴岡教室
・住所：〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町1番25号
・電話番号：岡自宅0235-23-3074
・MAIL：shonainougakukan@ivy.ocn.ne.jp
・URL：https://www.noh.or.jp/

開催DATA

自治体名	山形県鶴岡市
自治体人口	120,398人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	酒井家庄内入部400年記念宝生流能楽公演実行委員会（庄内能楽館鶴岡教室）
開催回数	1回
開催日	令和4年6月15日（水）
開催場所	鶴岡市 荘銀タクト鶴岡
観客数	能楽体験400人（一般成人を含む）

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

ただみスノースポーツフェスティバル2022

ただみスノースポーツフェスティバルは、15年前から行っているスポーツイベントです。只見町の豪雪地域のネガティブなイメージを払拭し、雪を強みに変えながら奥会津の地域資源を使って楽しむ種目（スノーバレー競技、雪上フットサル、ニュースポーツ）を中心に開催しています。このイベントは、地域おこしや交流人口の拡大も視野に入れながら、多くの地域住民の協力が原動力となって世代間交流を大切にしたスノースポーツイベントとして毎年続けられるイベントを創りたいとう願いから、地元の有志の発想で始まりました。開催月の3月、只見町は厳冬から春の気配を感じる頃となり、雪上で思いきりスポーツをするのはとても心地よく、豪雪のイメージがガラリと変わることを実感していただけます。もちろん、このスノーイベントは、観るスポーツとしても楽しむことができます。なんといっても雪上でのスポーツはハプニングの連続。スノーバレーも、雪上フットサルも、スパイクボール、フレスコボールも、イベント会場は笑い声が絶えません。観戦腹筋痛も必至です。

気になる歴代のイベントの様子はYouTubeでもご覧いただけますので、ぜひ「ただみスノースポーツフェスティバル」で検索してみてください。

さらに、スノーバレー競技はいよいよ冬季オリンピック種目として登録なるか？という注目のスポーツとなりました。まさか１５年前には想像だにしない展開になって喜び倍増です。北欧ではすでに世界大会も開催されているとか。このイベントを通じてスノーバレーボール球が開発された経緯もありますので、元祖スノーバレー発祥の地となることを願っています。ただみスノースポーツフェスティバルは、ガチのスノースポーツも、楽しむスノースポーツもどちらも体験できますので、皆様のご来場をお待ちしています。









2023年開催日程

■開 催 日：2023年3月19日
■開催場所：只見町亀岡字前通り1−7　只見町多目的活性化広場内ビーチコート
■問い合わせ先
・団体名：特定非営利活動法人
ただみコミュニティクラブ
・住所：福島県只見町大字小林字下前田412番地
・電話番号：0241-86-2671
・MAIL：info@tadami.info
・URL：https://sites.google.com/view/tadami-cc/

開催DATA

自治体名	福島県只見町
自治体人口	3810人　※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	特定非営利活動法人ただみコミュニティクラブ
開催回数	13回
開催日	2022年3月26日
開催場所	只見町亀岡字前通り1-7　只見町多目的活性化広場内ビーチコート
観客数	300人

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

芝桜まつり・世界のあじさいまつり



平田村のシンボル蓬田岳（よもぎだだけ）の麓に広がる「ジュピアランドひらた」では、毎年、芝桜まつりと世界のあじさいまつりが盛大に開催される。

ジュピアランドひらたが開園したのは平成7年。それまでは、福島県民でさえ、「平田村ってどこ？」と知名度はゼロ。「これではいかん！」。関係者が立ち上がった。標高が500㍍を超え、平均気温は北海道と同じレベル。「何ができる？」。北海道に大きな芝桜園がある。「これだ！」コツコツ植栽を続け2.3㌶に約25万株の芝桜が咲き誇る花畑になり、平田村と言えば、「芝桜」と答えが返ってくるほど知名度がアップした。4月下旬から開催される芝桜まつりには、県内外から多くの来園者がある。懐かしの屋台や工夫を凝らした「かかしコンクール」など見所がいっぱいだ。東京スカイツリーと高さが同じ標高にあるスカイカフェ634からの眺めも最高だ。ＴＶの情報番組で毎年放送される注目イベントとなった。





芝桜まつりは5月中旬で終了。ジュピアランドひらたは翌年まで休眠だ。「これではいかん！」関係者が立ち上がった。芝桜の後に、人気があり長持ちする花は？　「そうだ、あじさいだ！」平成26年から植栽を開始。5㌶。825品種。約27,000株。堂々たる規模だが何かが足りない。「よし！　ギネスに挑戦しよう」。関係者が頑張った。平成30年7月14日。「同日開花品種数372品種」ギネス世界一に認定され世界のあじさい園が誕生した。「平田村あじさい記念日」としても認定された。世界のあじさいまつりのPRを始めた。しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大した。本格的なPRが出来なくなったが、あじさいが好きな人たちが来てくれた。眺望抜群の休憩施設「あまやどり372」で来園者と会話をする。「すてきなところね」「花に囲まれて天国みたい」「こんなに眺めが良いとは……もっとPRすればいいのに…」



百聞は一見に如かず。花と自然を楽しむ「花のまつり」に来てみませんか。



次回開催日程

■開　催　日：令和5年4月18日～5月14日・
　　6月27日～7月23日
■開催場所：ジュピアランドひらた芝桜園・世界のあじさい園
■問い合わせ先
・団体名：一般財団法人平田村産業振興公社
・住所：福島県石川郡平田村大字永田字切田116番地
・電話番号：0247-55-3557
・MAIL：staff1@hirata-kosha.or.jp
・URL：https://www.vill.hirata.fukushima.jp/

開催DATA

自治体名	福島県石川郡平田村
自治体人口	5,511人　※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	一般財団法人平田村産業振興公社
開催回数	芝桜まつり19回、世界のあじさい・ゆりまつり6回
開催日	令和4年4月23日～5月15日・6月20日～7月24日
開催場所	ジュピアランドひらた芝桜園・世界のあじさい園
観客数	60,000人

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

小宅古墳群 菜の花・桜まつり

栃木県益子町にある小宅古墳群は、6基の前方後円墳と29基の円墳で構成され、6世紀後半に築造された大規模な古墳群です。総数35基のうち17基が県指定文化財となっており、その史跡のほとんどが亀岡八幡宮西側の丘陵地帯に点在しています。

この古墳群は長い間荒廃した山林に埋もれておりましたが、10年前から地元の有志（亀岡八幡宮里山の会）が立ち上がり、里山林を整備してきました。

里山の会では木の伐採や草刈りと合わせ、桜の植樹や菜の花の栽培を実施してきた結果、周辺の里山と相まって美しい景観が創出され、7年前から4月上旬に菜の花・桜まつりを開催しています。特にPRはしておりませんがロコミやSNS、新聞などにより話題となり、昨年は約30,000人の来場がありました。



イベントのコンセプトは「五感を楽しむ」です。①視覚：丘に咲き誇る菜の花と桜のハーモニーは、まさに天国のような美空間です②聴覚：当エリアは野鳥の宝庫であり、特にカラ類のさえずりは人の心を和ませます③嗅覚：菜の花畑に入ると花の甘い香りが漂い、自然の優しさを感じることができます④味覚：ここ3年はコロナで飲食販売や花見を禁止していましたが、以前は地域の食材を活用し、手作り甘酒や味噌田楽、会場内でのとりたてタケノコなどを販売しておりました⑤触覚：来場者とスタッフとの心の触れ合いを大切しており、その結果リピーターが多いことがこのイベントのメリットとなっています。



具体的な内容としては、里山ウエディング、ターザンブランコ、会場内の竹を使ったワークショップ、新入学記念撮影、ラインを活用した記念動画編集サービス、歌謡ステージショー、カブトムシ幼虫探し、弓矢体験、モデル撮影など多彩なサービス・イベントがあります。

未発掘古墳の古代ロマンと美しい丘の花畑が人々の心を酔わせ、1,500年の時を経てこのエリアが注目されれば、古墳内の御霊も喜ぶことでしょう。







令和５年開催日程

■開 催 日：令和5年4月上旬
■開催場所：小宅古墳群
■問い合わせ先
・団体名：亀岡八幡宮 里山の会
・住所：栃木県芳賀郡益子町大字小宅1369-1
・電話番号：090-3916-2332
・MAIL：zuikaku2332@gmail.com

開催DATA

自治体名	栃木県益子町
自治体人口	21,000人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	亀岡八幡宮 里山の会
開催回数	7回
開催日	4月上旬
開催場所	小宅古墳群
観客数	30,000人

次点

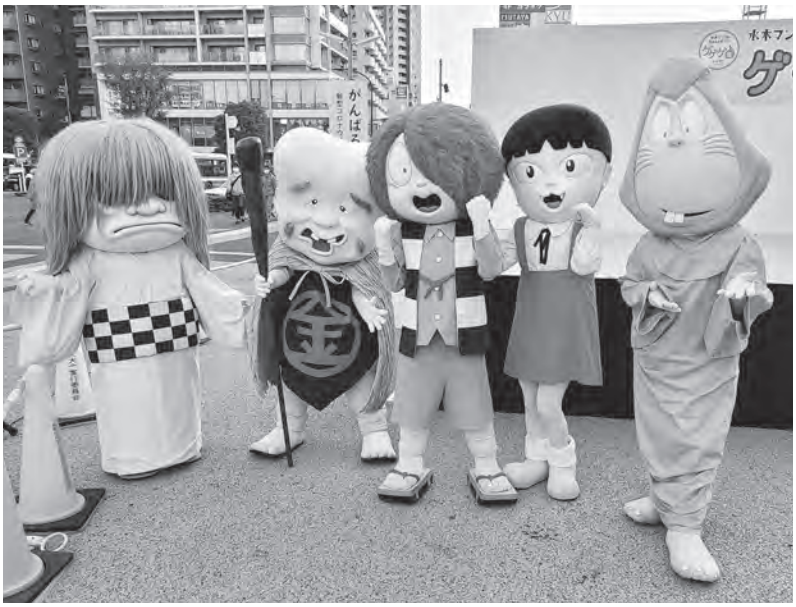
第27回 ふるさとイベント大賞

ゲゲゲ忌2021

調布市は、「ゲゲゲの鬼太郎」の原作者である調布市名誉市民・水木しげるさんが50年以上在住した「水木マンガの生まれた街」である。市では、平成27年11月30日にご逝去された水木しげるさんのご功績を称え、ご命日を「ゲゲゲ忌」と命名し、水木しげるさんをしのぶイベントや取り組みを関連企業や商店会、他自治体等と連携し、平成28年から毎年開催している。

●イベント・取り組み一覧＝共催　調布市観光協会

・イベントの広報および景品用として「ゲゲゲ忌2021」限定のビジュアル（キャラクターを使用したイラスト）を制作
・ゲゲゲのスタンプラリー（水木しげるさんの作品に登場したスポットなど市内各所のゆかりの地を巡るスタンプラリー）
・「ゲゲゲ横丁・ゲゲゲの森」（調布駅前広場でのゲゲゲ忌限定商品の販売、キャラクターショー、演奏会、鳥取物産展、境港のカニ汁販売など）＝協力：東映アニメーション株式会社、鳥取県、株式会社ジョイント
・アニメ特別上映会（声優・制作スタッフによるトークショー、インターネットからのストリーミング配信など）＝協力：東映アニメーション株式会社、鳥取県、株式会社ジョイント、イオンシネマ シアタス調布
・ゲゲゲ忌コスプレイベント～調布市ブリガドーン計画～（「ゲゲゲ横丁・ゲゲゲの森」での着ぐるみとの記念撮影会。期間中、水木キャラクターのコスプレ参加者に記念品を配布）
・市職員等による鬼太郎ちゃんちゃんこの着用とゲゲゲ忌ネームストラップの着用
・市立小・中学校、公立保育園で水木キャラクターや水木しげる氏にちなんだ給食の実施
・水木しげる氏特集コーナーの設置（市立中央図書館）
・議場コンサート（調布市議会議場で実施）
・市内商店会や企業で水木しげる氏をしのんだ独自の取り組み
・「鬼太郎茶屋」（市内にある「ゲゲゲの鬼太郎」キャラクターショップ）との連携
・カランコロンウォーキング＝主催：調布市ウオークリング協会
・ゲゲゲ忌限定特別御朱印の頒布＝主催：布多天神社
・鳥取県PRコーナーの設置（調布市文化会館たづくりで実施）＝主催：鳥取県
・松下奈緒コンサートツアー2021 “PLAYLIST”「ゲゲゲ忌2021」スペシャル・バージョン＝主催：株式会社キョードーファクトリー











次回開催日程

■開　催　日：令和5年11月下旬予定
■開催場所：未定
■問い合わせ先
・団体名：調布市生活文化スポーツ部産業振興課
・住所：東京都調布市小島町2-35-1
・電話番号：042-481-7183
・MAIL：kankou@city.chofu.lg.jp

開催DATA

自治体名	東京都調布市
自治体人口	238,505人　※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	調布市
開催回数	7回（令和4年度開催分も含む）
開催日	令和3年11月20日から令和3年11月30日まで
開催場所	調布市内各所
観客数	イベントごとに異なる

次点

第27回 ふるさとイベント大賞

立山Craft2022秋

富山県立山町の東部に位置する上東地域。この土地の特色の一つに古くから伝わる越中瀬戸焼があります。また、近年、和紙・漆・金工・陶芸の新たな作家もこの土地に工房を構え制作を始めています。

しかしながら児童生徒数の減少に伴い、この地区に1校あった中学校がなくなり、4校あった小学校もすべて休校となってしまうという現状がありました。地域コミュニティをつなぐ核であった学校がなくなってしまうことで、地域力の低下や、さらなる人口減少に不安を感じている住民も少なくなく、世代を越え気軽に集い、楽しめる場の創出が求められていました。

こうした中で生まれたのが、全国からもの作りの作家が集まるクラフトフェア「立山Craft」です。

色づいた木々に囲まれた芝生広場の会場では、立山連峰を背景に、陶磁器・木工・ガラス・服飾・金工・革など、全国から約90組の作家が集いテントを連ねます。

来場者は、約3倍の応募者の中から選ばれた質の高い作品との出会いと、作家本人との交流を楽しみに会場を訪れます。

クラフト出店の他に音楽ライブや子どもたちの遊び場、フードの出店などもある他、イベントの大切な要素として地域の方々による地域紹介の場もあり、大勢の来場者でにぎわいます。

イベントは回を重ねる中で、2日間で約15,000人が来場する、県を代表するクラフトイベントにまで成長しました。コロナ禍では、人数制限などさまざまな制約を受けながらも、地域活性化の火が消えてしまわぬよう毎年の開催につなげてきました。

全国で開催されるクラフトフェアの中でも「立山Craft」の来場者の層はとても若く、子ども連れの家族も多く来場されます。

1年に2日間だけの開催ではありますが、継続して開催していく中で、地域の魅力を再発見するきっかけを作ること、そしてこの会場から、未来のクラフトマン、クラフトファン、そして人のぬくもりを感じられるもの作りの土壌が育ってゆく事を期待しています。











次回開催日程

■開 催 日：2023年10月28日、29日
■開催場所：立山町総合公園
■問い合わせ先
・団体名：NPO法人立山クラフト舎
・電話番号：090-6508-4157
・MAIL：tateyama_craft@yahoo.co.jp
・URL：https://tateyamacraft.wixsite.com/tateyamacraft

開催DATA

自治体名	富山県立山町
自治体人口	24,920人 ※2022年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	NPO法人立山クラフト舎
開催回数	8回
開催日	2022年10月22日、23日
開催場所	立山町総合公園
観客数	約8,000人

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

オバラあかりの華 軽トラあんどんパレード

私たちの暮らす豊田市小原地区は、愛知県の北、岐阜県との県境にあり平成の大合併で小原村から豊田市となりました。峠を越えると次の国というくらい江戸期には西三河数々の小藩のあてがい地として分割され、44ある「字」の合衆国のような中山間地域です。近年日本中の田舎がそうであるように、待ったなしの人口減少にともないコミュニティの活力は年々失われていきます。同じ旧小原村に住みながら〈小原〉という一つの地域がなく、各「字」があるだけ……。

そこで11年前、一年に一回すべての「字」をつなぐパレードをやろう！と計画しました。まず、①小原文化の代表「小原和紙」②小原の生活文化である「軽トラック」③小原の夜の漆黒の暗闇を逆手にとる。その三つを組み合わせたパレードが〈軽トラあんどんパレード〉です。軽トラの上にそれぞれの参加者が和紙で作ったあんどん作品を乗せ、峠を上り下り約40㌔の山道を3時間かけて各「字」をひとつにつなぐのです。第1回は9台から始まり、昨年の第11回は21台の軽トラあんどんが連なり、250mのパレードが暗闇を縫いながら進みます。そして辻々で待つ村人たち、人口3300人を切る小原の半数以上の人が子どもから老人まで手に手に色とりどりのライトのスティックを振って迎えてくれます。小原で見たことのない心からの笑顔と「ありがとう」という言葉に10年かかって、やっと「字境（あざさかい）」を越えて一つになる流れが生まれてきたという実感を覚えます。

最近では小原地区以外からのあんどん参加もあり、それとともにパレード見物に訪れる人も増えてきました。また新しい動きとして参加している本城小学校のあんどんは児童が自ら漉（す）いた和紙で作ったとのこと。自ら作った灯りが多くの人たちの心を照らし、里山の闇に流れて過ぎる〈あかりの華〉たちが、一人ひとりの心の中にシーンとして残れば……と思います。









次回開催日程

■開 催 日：10月第1土曜日
■開催場所：豊田市小原地区
■問い合わせ先
・団体名：オバラあかりの華プロジェクト
・住所：愛知県豊田市小原田代町下椿709-1
・電話番号：090-8076-9908
・MAIL：woodworkatelier@gmail.com

開催DATA

自治体名	愛知県豊田市小原地区
自治体人口	3,259人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	オバラあかりの華プロジェクト
開催回数	11回
開催日	10月第1土曜日
開催場所	豊田市小原地区
観客数	2,000人程度

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

狭山池まつり2022

大阪狭山市は、大阪府の東南部に位置し、まちの中心にある日本最古のため池である狭山池に代表される豊かな水と歴史と文化が息づく緑豊かなまちです。

狭山池まつり開催の契機となったのは、平成13年に完了した狭山池の平成の大改修です。その改修工事の完成を祝うため、市民が中心となって「狭山池まつり実行委員会」が設立されました。現在は、市民や市民団体だけでなく高校生（狭山高校）・学生（近畿大学・帝塚山学院大学・ホンダ学園）などさまざまな人々がかかわり運営しています。大阪狭山市民だけでなく、市外からも多くの人たちが集う市内最大のイベントとなっています。



2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためまつり中止を余儀なくされましたが、2022年度は開催がかないました。狭山池まつり2022では、「あなたの笑顔に出会いたい」をテーマに、水環境について考えるきっかけとしての「手漕ぎボート体験」や、軽音楽演奏、ダンス、太鼓などを発表した「龍神舞台」、夜には狭山池を灯りでつなぐ「灯火輪」など、さまざまな催しを行いました。平時より規模縮小・感染症対策をした上の実施でしたが、約4万人もの人々が訪れました。久しぶりの狭山池まつりの実施に、人々は集える喜びを感じた1日でした。

また、実行委員会は年に1度の祭りだけでなく、狭山池クリーンアクションという毎月1回の清掃活動を267回実施（令和4年12月現在）するなど、美しい狭山池を未来につなげるために市民・団体・学生などが協力しながら盛んに取り組んでいます。

コロナ禍でさまざまな制限がかかる中ですが、今後も人々の憩いの場・ふるさとの誇りである狭山池を中心に、豊かな地域の創造・人づくり・まちづくりに取り組みます。







次回開催日程

■開 催 日：令和6年4月末
■開催場所：大阪府大阪狭山市　狭山池・狭山池堤・狭山池博物館
■問い合わせ先
・団体名：狭山池まつり実行委員会
・住所：大阪狭山市今熊1丁目540番地の3（商工会館内）
・電話番号：072-360-3805
・MAIL：ikematuri@mydoo.net
・URL：http://www.mydoo.net/ikematuri/

開催DATA

自治体名	大阪府大阪狭山市
自治体人口	58,292人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	狭山池まつり実行委員会
開催回数	21回（狭山池クリーンアクションは毎月開催）
開催日	令和4年4月30日（土）
開催場所	狭山池・狭山池堤・狭山池博物館
観客数	約4万人

次点

第27回 ふるさとイベント大賞

第44回馬関まつり



今から49年前の昭和49年（1974年）8月、下関青年会議所がまちの活性化のために「歌と踊りとみんなの夜市」を開催したのがまつりの誕生のきっかけです。その後、市民公募により「馬関（ばかん）まつり」（馬関は下関の古称）と命名され、昭和53年に第1回を開催。ここから「馬関まつり」の「市民祭」の歴史が始まりました。

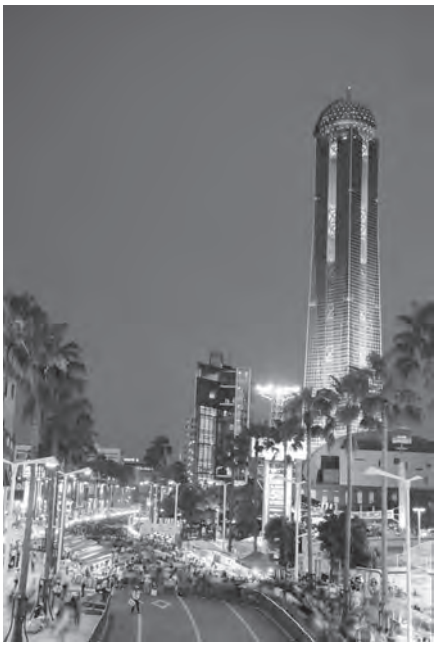
馬関まつりは、市民の皆様の活気と努力により時代の変化と共に発展し、メイン会場にはたくさんの夜店が並び、歌と踊りをテーマに街全体がにぎやかに盛り上がります。今では市内6会場において、40万人を超える人出でにぎわう山口県下最大級のまつりとなりました。まつりの最終日には市民総勢約4000人の踊り手による平家踊総踊りが行われ、圧巻のフィナーレを迎えます。

馬関まつりにおいても新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は避けられず、令和2年の第43回大会は史上初の中止、令和3年第44回大会についても集客イベントは中止となりました。しかしながら、下関青年会議所を中心とする馬関まつり推進協議会では、「2年連続の中止は避けたい」「まちに活気を、市民に笑顔を届けたい」という思いから、令和3年度は次期開催に向け、まつりを継承するプロジェクト「Restart　新しいカタチ」に取り組み、思い出の写真1万枚によるモザイクアートの制作・展示や次回開催に向けたドキュメンタリー番組を製作し放送・配信しました。

また、令和4年4月には、8月のまつりを段階的に盛り上げるプレイベント「馬関まつりof Spring」を開催しました。

これらの取り組みにより、令和4年8月には“Come Back「永遠に続く夏物語」”をスローガンに第45回馬関まつりを3年ぶりに開催することができました。残念ながら、一部のイベントは中止となりましたが、次回こそは完全復活に向け、にぎわいと笑顔があふれる市民総参加の祭りとして、まつりにかかわるすべての方に夢と希望を届けるまつりを開催します。







次回開催日程

■開 催 日：令和5年8月19日（土）・20日（日）
■開催場所：JR下関駅周辺
■問い合わせ先
・団体名：馬関まつり推進協議会
・住所：山口県下関市唐戸町6-1 カモンワーフ3F
・電話番号：083-231-6544

開催DATA

自治体名	山口県下関市
自治体人口	250,645人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	馬関まつり推進協議会
開催回数	45回
開催日	令和4年8月20日（土）・21日（日）
開催場所	JR下関駅周辺

次点

第27回 ふるさとイベント大賞

うだつをいける

美馬市の主要観光地の一つである「うだつの町並み」の冬期の観光客数を増加させるため、平成19年度に国の重要伝統的建造物群保存地区・美馬市「脇町うだつの町並み」内の市指定文化財「藍商佐直・吉田家住宅」を主会場に初開催した、美馬市観光大使で華道家・假屋崎省吾氏の華道展。

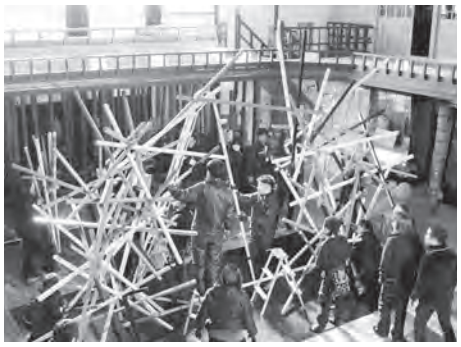
世界最大の園芸博覧会で世界一の評価を受けたこともあり、洋らん（シンビジウム）の育種と種苗生産において全国シェア約80％を持つ（株）河野メリクロンのシンビジウムを中心に、山野の花・竹・樹木など美馬市産の自然の素材を花材として用いた絢爛豪華な作品が並び、来場者を楽しませている。例年1月上旬から2月下旬の間で開催しており、イベント初日には、假屋崎氏のトークイベントやサイン会などを開催し、期間中には、来場者へフラワーアレンジメントをプレゼントするなどさまざまなイベントを行っている。

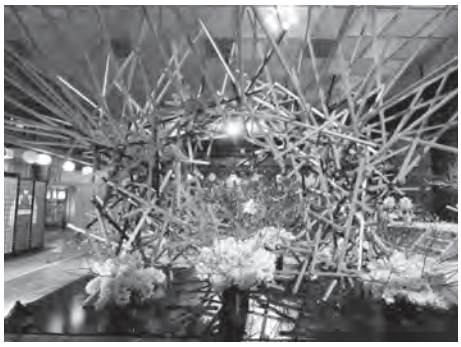
国内だけでなく、世界的に活躍している假屋崎氏の知名度による新規顧客とリピーターの獲得により、新型コロナウイルス感染症拡大前（令和2年度以前）の来場客数は、年々増加傾向にあった。

市職員はもとより、地元ボランティアスタッフを幅広く募り、イベント開催2カ月前から花材を美馬市内各所で調達したり、ボランティアスタッフの庭で栽培されている素材の提供を受けたりするなど事前準備も念入りに行っている。また、イベント直前には展示作品の生け込みの手伝いをするなど、市民・行政・民間事業所・観光ビューローが一体となって取り組む冬の一大イベントに成長している。

当イベントは視覚的に来場者を楽しませるーイベントではなく、イベント開催に至るまで多くの人の想いが込められており、地域に対する愛着と誇りを育み、地域の活力を生み出すイベントである。











次回開催日程

■開　催　日：令和6年1月上旬～ 2月下旬（予定）
■開催場所：藍商佐直 吉田家住宅／あんみつ館（予定）
■問い合わせ先
・団体名：一般社団法人美馬観光ビューロー
・住所：徳島県美馬市脇町大字脇町92
・電話番号：0883-53-8599
・MAIL：info@mimakankou.or.jp
・URL：http://mimakankou.or.jp

開催DATA

自治体名	徳島県美馬市
自治体人口	27,413人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	一般社団法人美馬観光ビューロー／美馬市
開催回数	15回
開催日	令和5年1月8日～令和5年2月26日
開催場所	藍商佐直 吉田家住宅／あんみつ館／脇町劇場オデオン座
観客数	11,733人（令和3年度）

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

まつしげ人形劇フェスティバル2021



まつしげ人形劇フェスティバルは、平成19年に徳島県で開催された「第22回国民文化祭・とくしま2007」で松茂町が人形劇部門を担当したことがきっかけで、はじまったフェスティバルです。本フェスティバルは、国民文化祭に先駆けて平成18年に開催した「まつしげ人形劇フェスティバル」プレ大会から数えて、令和3年に16回目を迎えました。

フェスティバルのメインとなるのは、平成5年に「阿波人形浄瑠璃」の保存継承活動を目的に町民有志で結成された人形座「ふれあい座」の人形浄瑠璃芝居、国民文化祭の時に結成された影絵劇団「はなほな」の影絵劇、プロ人形劇団による現代人形劇です。「ふれあい座」の人形浄瑠璃芝居は、松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館の屋外に併設される人形浄瑠璃専用舞台で、徳島藩のお家騒動を題材にした「傾城阿波鳴門　順礼歌の段」「壺坂観音霊験記」「伊達娘恋緋鹿子」などの演目を上演しています。舞台と物語の進行を義太夫節で語る「太夫」、太棹三味線で太夫の語りに負けず劣らず力強い音色を紡ぎ出す「三味線弾き」、まるで生きているかのように人形を操る「人形遣い」の三者が一体となり繰り広げる「三業一体」の演劇は、観衆を物語の中に引き込んでいきます。徳島県の農山漁村の神社の境内には、古くから人形芝居を主として演じられた農村舞台が多数残されています。松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館の専用舞台は、江戸時代の人々が農村舞台で鑑賞したスタイルを模しているため、徳島県の伝統芸能を昔ながらのスタイルで体験することができます。





また、影絵劇や現代人形劇は、子どものためだけのものではなく、青年から高齢者にいたるまでの大人に対しても、観劇体験の中で感動や活力を与えられる空間を創出しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で近年は規模を縮小しての開催となっていますが、今後も人形劇を通して情操教育の一端を担う活動を行っていきます。





次回開催日程

■開 催 日：令和5年秋頃（9月～12月）
■開催場所：松茂町歴史民俗資料館屋外舞台ほか
■問い合わせ先
・団体名：松茂町歴史民俗資料館・
　人形浄瑠璃芝居資料館
・住所：〒771-0220 徳島県板野郡松茂町広島
　字四番越11-1
・電話番号：088-699-5995
・MAIL：info@joruri.jp
・URL：http://www.joruri.jp

開催DATA

自治体名	徳島県松茂町
自治体人口	14,732人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	まつしげ人形劇フェスティバル事務局
開催回数	16回目
開催日	令和3年10月16日～ 12月18日
開催場所	松茂町歴史民俗資料館屋外舞台ほか
観客数	142人

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

凧博物館で遊び、凧文化を広げてみようプロジェクト

内子町の五十崎地区では、約400年の歴史をもつ「いかざき大凧合戦」が地域の一大伝承行事となっています。地域には、五十崎の凧はもとより、世界の凧を展示する「五十崎凧博物館」があり、凧文化は五十崎地区のアイデンティティとして町内外に認知されています。

しかしながら、近年は、趣味の多様化や担い手の高齢化、地域の少子化、コロナ禍によるイベントの中止により凧合戦の参加者減少や凧博物館の存在意義の希薄化が感じられる状態でもあります。

そこで凧文化の継承と凧博物館の認知度向上を目的として、若年層対象の凧文化イベントを行うこととしました。

まず夏休みには、凧博物館に来場してもらうことを目的に毎金曜日夜に「凧博ナイトメア」というお化け屋敷風謎解き脱出イベントを開催しています。お化けの徘徊する展示場内で、お化けに見つからないようにしながら、凧の展示物をヒントに隠された謎を解いて脱出するイベントです。

冬休みには、凧合戦への理解を促すため1月3日に「凧合戦リアルすごろく大会」を開催しています。自身がすごろくのコマとなり、展示場内に配置されたマスを進んでゴールをめざします。マスには展示物にまつわるイベントや、凧合戦に必要な、ガガリ（刃物）・凧などを手に入れるイベントがあり、遊びながら地域行事を学ぶことができます。

春休みには、「凧博タコゲーム」という凧作りイベントを開催しています。韓国のドラマである「イカゲーム」をモチーフにした催しで、ここまで来ると大人が凧を題材に遊んでいる感じになりますが、この姿を子供たちに見せることも大事なことだと思っています。イベントでは、だるまさんが転んだなどの簡単なゲームをしつつ、凧の材料をあつめ、後半では、実際に凧作りを行い、最後に凧あげをします。

このように凧や博物館を地域の資源として、多くの住民や来街者が参加して、地域を理解していくことが、未来へ凧文化を継承する力になると思っています。











次回開催日程

■開 催 日：ナイトメア＝夏休みの毎週金曜夜／すごろく大会＝1月3日／タコゲーム＝3月最終日曜日
■開催場所：五十崎凧博物館
■問い合わせ先
・団体名：五十崎自治センター
・住所：愛媛県喜多郡内子町平岡甲185-1
・電話番号：0893-43-1221
・MAIL：m-inatsuki@town.uchiko.ehime.jp
・URL：https://www.town.uchiko.ehime.jp/

開催DATA

自治体名	愛媛県内子町
自治体人口	15,425人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	五十崎自治センター
開催回数	ナイトメア3回、すごろく大会1回、タコゲーム1回
開催日	夏冬春休みの指定日
開催場所	五十崎凧博物館
観客数	164人（令和3年実績）

次点

第27回
ふるさとイベント大賞

オムライス街道キックオフイベント

日高村は昼夜の寒暖差が大きい特有の気候を生かし、昔からトマトの産地として知られてきました。この美味しいトマトをつかったオムライスで農商が連携し、村の知名度を上げ、地域活性化につなげること、そして、村の子どもたちに観光の取り組みを通して、誇りや愛着などを醸成し、村民全体で日高村の自慢を育もうという思いで始まったのが「オムライス街道」の取り組みです。



取り組みの主な内容は、日高村産のトマトを材料にしたオムライスを地域の方や観光客に提供し、たくさん笑顔になってもらうことです。美味しいオムライスを提供するのは村を東西に走る国道33号沿いに点在する飲食店。どのお店にも歴史と個性があり、提供するオムライスもシンプルなものから中華アレンジまでバラエティに富んでいます。

村では毎年6月に「オムライス街道キックオフイベント」を開催しています。このイベントではオムライス街道スタンプラリー（1年間にオムライス街道加盟店のスタンプを集めてもらいます！　全店制覇者などにはプレゼントも！）、オムライス街道加盟店の新作メニューの発表（オムライスは毎年進化しています！）、地域の子どもたちによるダンス（日高村オリジナルソング「トマトの神様」のリズムに合わせて！）、中学生による学習発表会（日高村の歴史などを学べます！）などさまざまな催しを開催しています。



最近では、オムライス街道の取り組みと連携して、イベント時には盛大な「観光列車のおもてなし」も実施しています。このおもてなしでは、イベント会場にいる全員でJR土讃線を運行する観光列車をもてなします。観光列車の通過に合わせてトマトカラーの赤色と黄色の風船を空に飛ばしたり、横断幕をもって手を振ったりします。観光列車の乗客からのリアクションもあるため、参加者からは「次も参加したい」との声を多くいただきます。

高知市から日高村まではわずか15㌔ほど。高知県に訪れる機会があれば、ぜひ、日高村自慢のトマトを使ったオムライスを食べにきてください。







次回開催日程

■開 催 日：オムライス街道キックオフイベント 令和5年6月12日／オムライス街道スタンプラリー 令和5年6月12日～令和6年3月24日
■開催場所：日高村内（詳細は調整中）
■問い合わせ先
・団体名：日高村産業環境課
・住所：高知県日高村本郷61-1 日高村役場2階
・電話番号：0889-24-4647
・MAIL：sangyou@vill.hidaka.lg.jp
・URL：https://www.hidaka-omuraisu.info/

開催DATA

自治体名	高知県日高村
自治体人口	4,858人 ※令和4年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	日高村
開催回数	9回
開催日	毎年6月
開催場所	年によりさまざま
観客数	未集計


Tokushima
Iya River
徳島
【祖谷川】

手前みそですが…

和歌山県

太地町 291

くじらの町　太地町



■クジラのモニュメント
太地町の玄関口では、実物大のザトウクジラの親子が訪れる人を出迎えます

太地町は紀伊半島の吉野熊野国立公園の中央に位置し、雄大な熊野灘に臨む広大な地域は四季折々の魅力にあふれています。風光明媚な大自然は、変化に富んだ典型的なリアス式海岸に彩られ、時には豪壮であり、時には優美であります。くじら浜公園内には、世界有数の資料を保有する「太地町立くじらの博物館」があります。館内では、クジラやイルカのショーをはじめ、鯨に関するレクチャー、クジラやイルカとのふれあい体験などが行われています。ぜひ一度ご来館下さい。

また、毎年11月の第1日曜日には「太地漁港ふれあい広場」の一角に特設舞台を組んで「太地浦くじら祭」が行われます。鯨踊り、鯨太鼓、民謡踊りなどの郷土芸能が披露されます。太地町の玄関口では、2頭のザトウクジラのモニュメントが迎えてくれます。



■燈明崎
古式捕鯨の指令所「山見台」があった燈明崎は、熊野灘を一望できる断崖の場所にあります



■餌あげ体験
くじらの博物館内では、色々な体験ができます。中でも餌あげ体験は、自然プール内に設置した生け簀で飼育されている、クジラやイルカに餌をあげることができます。料金は、300円となっております



■鯨入りソーセージ
高タンパク・低脂肪・低カロリーで、運動能力を高め、健康に良く、美容にもよいという優れた食品である「鯨肉」を15%使用しています。そのままでもまた炒めても、美味しく召し上がっていただけます



■道の駅　たいじ
2017年8月にオープンした「道の駅たいじ」は地元で採れた海産物や農産物を販売しています。フードコートでは鯨スタミナ丼や鯨カツバーガーなど鯨料理も楽しめます



■くじら浜海水浴場
日本で唯一のクジラと泳げる海水浴場です。浴場内に生け簀を設置して、海水浴をしながら、近くでクジラが泳ぐのを見ることができます。1日2回生け簀からクジラが海水浴場内に放されます。太地ならではの海水浴場です

地域づくり５月号

2023年5月1日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階 電話03-5202-6131(代)
https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

法律で許可された場合以外に本誌からの無断転載を禁止します
落丁・乱丁はお取り替えします。編集室（03-5202-6139）E-mail：hensyuu6139@jcrd.jp まで、ご連絡下さい。

地域活性化センターからのメールマガジン登録はこちら

地域づくり5月号 特集編（通巻407号）第27回ふるさとイベント大賞 令和5年5月1日 一般財団法人 地域活性化センター発行

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。



移動採血車

全国各地で運行している
献血バスを寄贈



ベンチ

全国の公園緑地等に
ベンチを設置



フラワープランター

観光地の環境美化活動の
推進を目的として寄贈



宝くじ桜

日本全国に
さくら若木を寄贈



車いす

博物館利用者のために
車いす等を寄贈



一輪車

体力つくり実践校等に
一輪車を寄贈



バス停留所施設

バス停上屋と
風防施設を設置



すこやか広場

こどもの国（神奈川県）に
健康器具や遊具を設置



検診車

胃部・胸部X線撮影車
として寄贈

**宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、
教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。**

あなたに夢を。街に元気を。
クーちゃん 宝くじ

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/